4. 第１面の調査

１区

１区の１面の調査では、「遠構」（ＳＤ04）がほとんど埋没し、土塁も平らになってしまった近代以降の面を主に調査した。遺構としては、「遠構」の名残りと思われるＳＤ01・02やその他の２面目の遺構が埋没した後、その上層に形成されたＳＫ01～11、ピット01～12を検出した。ＳＫ10・11は、覆土に炭殻や砕石を含み、遺物も煉瓦などが検出されたため、近代以降の遺構と思われる。その他の遺構の覆土を見ると、炭や焼土が多く含まれ、Ａｓ－Ａ軽石は含まれていなかった。真町Ｉ遺跡でも述べられているが、この炭や焼土は、明治以降の火事によるものの可能性が考えられる。また、Ａｓ－Ａ軽石が含まれていないのは、Ａ軽石処理溝などで復旧され、地面にＡ軽石がほとんど見られなくなった時期に掘られた遺構のためと思われる。

(1) ＳＫ10

１区のほぼ中央付近で検出された土坑で、東西2.7ｍ、南北5.2ｍ、深さ1.2ｍの規模を測る。平面が長方形の土坑で、東側のＳＫ11を壊して作られている。西側部分は調査区外へ続いているため、遺構全体の規模は不明である。古墳時代の水田面を掘り抜き、シルト質の井野川泥流層中に底面を形成している。確認された３面の周壁下には、周壁に沿って直径25～40cm、深さ30～40cm程のピットが13個検出されている。ピットには木杭が打たれていたと見られ、周辺から杭やその破片が出土している。また、北壁では壁に接して一辺12cmと9cmの角材が打ち込まれたまま検出され、角材と壁との間に長さ50cm、厚さ2cm程の板が横に設置されていた。ここではこの他にも、何枚もの板が出土しており、周壁が崩れないように土留めをしたものと見られる。さらに、周壁に沿ったピット列の内側約40～50cmに別なピット列が検出されている。規模は前述のものと同様で、やはり丸木が打ち込まれたままの状態で検出されたり、板が多数出土している。北壁に並行する部分では、細長い板が何枚も縦方向に打ち込まれ、これに寄せかけるように横方向に板が設置されていた。こちらも出土状況から判断すると、土留めとして作られたものと見られる。

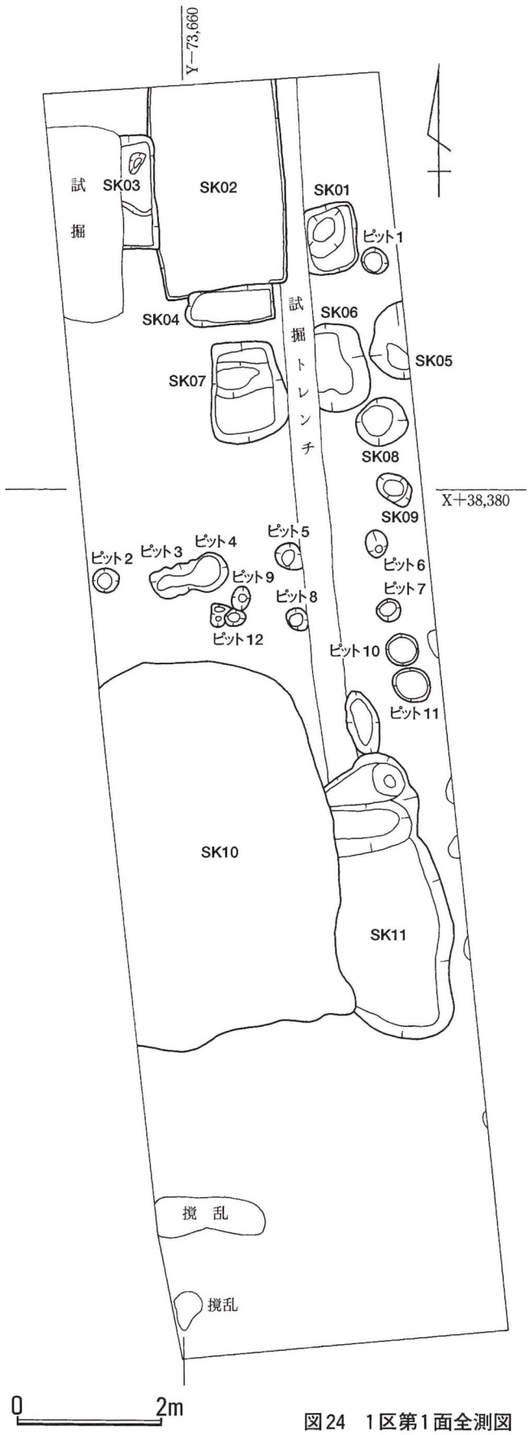
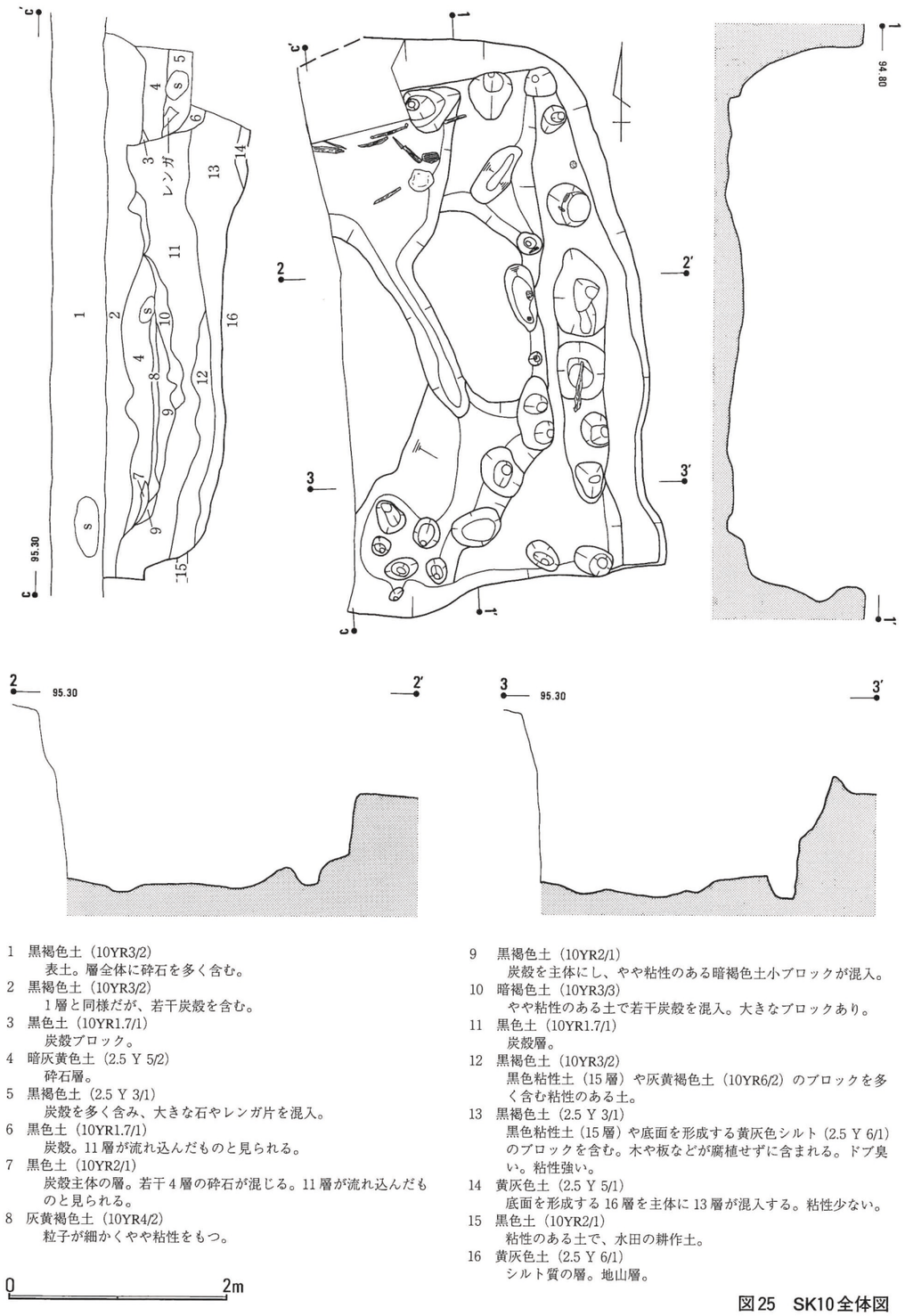


図24　１区第１面全測図



1　黒褐色土（10YR3/2）
　表土。層全体に砕石を多く含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）
　１層と同様だが、若干炭殻を含む。
3　黒色土（10YR1.7/1）
　炭殻ブロック。
4　暗灰黄色土（2.5Ｙ5/2）
　砕石層。
5　黒褐色土（2.5Ｙ3/1）
　炭殻を多く含み、大きな石やレンガ片を混入。
6　黒色土（10YR1.7/1）
　炭殻。11層が流れ込んだものと見られる。
7　黒色土（10YR2/1）
　炭殻主体の層。若干４層の砕石が混じる。11層が流れ込んだものと見られる。
8　灰黄褐色土（10YR4/2）
　粒子が細かくやや粘性をもつ。
9　黒褐色土（10YR2/1）
　炭殻を主体にし、やや粘性のある暗褐色土小ブロックが混入。
10　暗褐色土（10YR3/3）
　やや粘性のある土で若干炭殻を混入。大きなブロックあり。
11　黒色土（10YR1.7/1）
　炭殻層。
12　黒褐色土（10YR3/2）
　黒色粘性土（15層）や灰黄褐色土（10YR6/2）のブロックを多く含む粘性のある土。
13　黒褐色土（2.5Ｙ3/1）
　黒色粘性土（15層）や底面を形成する黄灰色シルト（2.5Ｙ6/1）のブロックを含む。木や板などが腐植せずに含まれる。ドブ臭い。粘性強い。
14　黄灰色土（2.5Ｙ5/1）
　底面を形成する16層を主体に13層が混入する。粘性少ない。
15　黒色土（10YR2/1）
　粘性のある土で、水田の耕作土。
16　黄灰色土（2.5Ｙ6/1）
　シルト質の層。地山層。

図25　SK10全体図

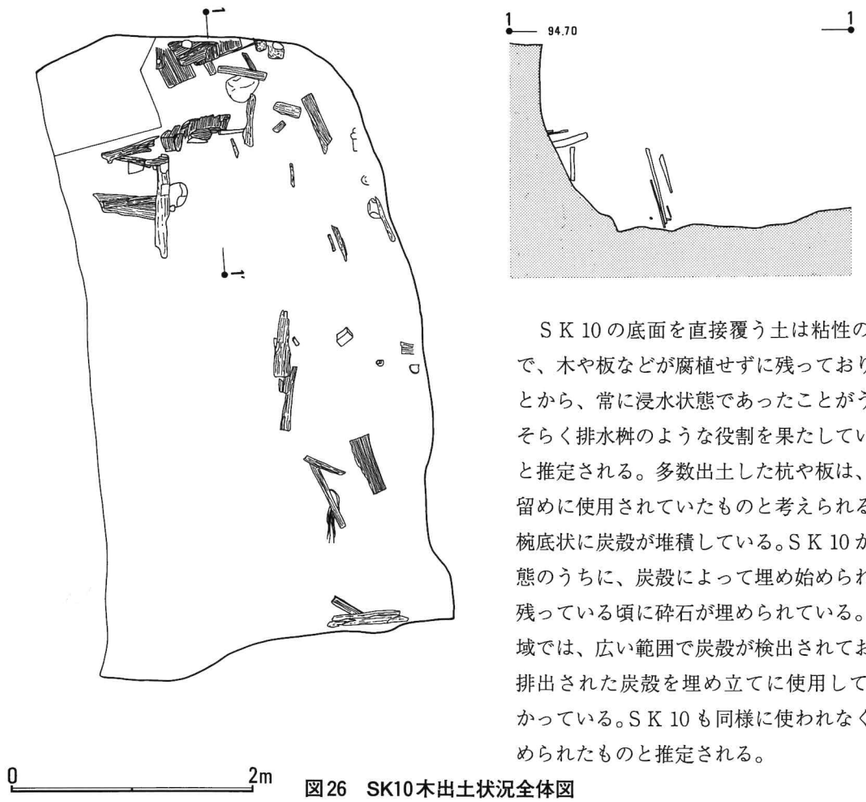


図26　SK10木出土状況全体図

ＳＫ10の底面を直接覆う土は粘性の強い黒褐色土で、木や板などが腐植せずに残っており、ドブ臭いことから、常に浸水状態であったことがうかがえる。おそらく排水桝のような役割を果たしていた場所であると推定される。多数出土した杭や板は、その周壁の土留めに使用されていたものと考えられる。覆土中位に椀底状に炭殻が堆積している。ＳＫ10が確認できる状態のうちに、炭殻によって埋め始められ、まだ窪みが残っている頃に砕石が埋められている。高崎駅周辺地域では、広い範囲で炭殻が検出されており、鉄道から排出された炭殻を埋め立てに使用していることがわかっている。ＳＫ10も同様に使われなくなったため埋められたものと推定される。

(2) ＳＫ11

ＳＫ11は、東西1.6ｍ、南北3.9ｍ、深さ40cmの土坑で、南北方向に長い楕円形を呈している。ＳＤ02の上層に位置し、西側にはＳＫ10が位置している。土坑を埋めているのは、炭殻層だけであり、他の土などは混入していない。炭殻を埋めるために掘られた土坑と見られる。遺物は、土師質の植木鉢、瓦質の火鉢とみられるもの、磁器碗などが出土している。

(3) 建物跡

ＳＫ11の炭殻層の上面において、栗石が2個所でまとまって確認された。1.5ｍの間隔をおいて南北に並ぶもので、北の栗石は3個の石がまとまって、南の栗石は6個の石がまとまっている。この栗石列に並行するように、調査区東壁に1.0～1.8ｍ程の間隔で5個の川原石が検出されている。いずれも径30～50cm程の石で、反築状にしっかり固められている。北から3・4番目の石は栗石と芯々距離で70～80cmの間隔で並んでいる。東壁の

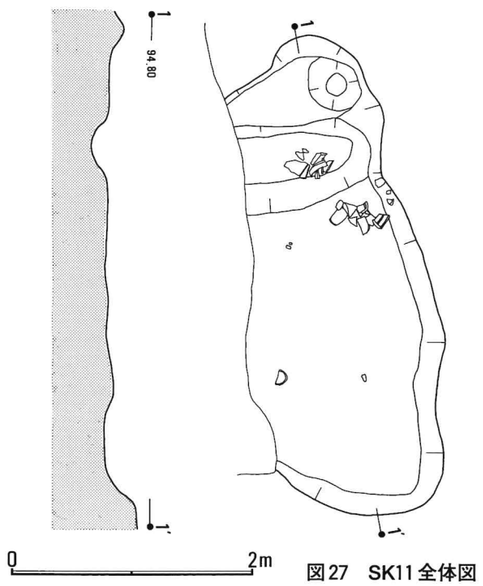


図27　SK11全体図

川原石の上面レベルがほぼ95.00ｍで、栗石の上面レベルは、ほぼ94.80ｍである。栗石上面の方が約20cm低い。川原石の厚さが20～25cmであることから、栗石の上に川原石が設置されていたことが推測される。栗石の下が炭殻であるため、礎石を設置するにあたり、栗石をおいて根固めをしているとみられるからである。現表土から栗石上面までは40～50cm程しかないため、発掘時点では既になくなっていたのであろう。

(4) ピット列

ピット2は、径0.3ｍ、深さ0.2ｍの規模で、覆土は粒子が細かくやや粘性がある。ピット3は、径0.5ｍ、深さ0.1ｍの規模で、覆土は粒子が細かく、コンクリート・土管片を含む。ピット4は、径0.6ｍ、深さ0.26ｍの規模で、覆土は粒子が細かく、やや粘性がある。遺物は煉瓦を検出した。ピット5は、径0.3ｍ、深さ0.2ｍの規模で、覆土は粒子の細かい土である。ピット6は、径0.3ｍ、深さ0.3ｍの規模で、覆土は粒子の細かい土と炭殻が混入しているである。ピット7は、径0.3ｍ、深さ0.16ｍの規模で、覆土は炭粒を含んでいる。ピット8は、径0.4ｍ、深さ0.14ｍの規模で、東側を試掘トレンチで切られている。ピット2・4・5・6は芯々距離1.2～1.3ｍで直線的に並ぶ。また、ピット7と8は、それぞれピット6と5に芯々距離0.9ｍの間隔で平行に位置する。ピット10は、径0.4ｍ、深さ0.24ｍ、覆土は炭粒・小礫を含み、煉瓦が出土した。ピット11は、径0.5ｍ、深さ0.22ｍの穴で、煉瓦が出土した。これらのピット列は直線的に並んでおり互いに関連する可能性を持っている。

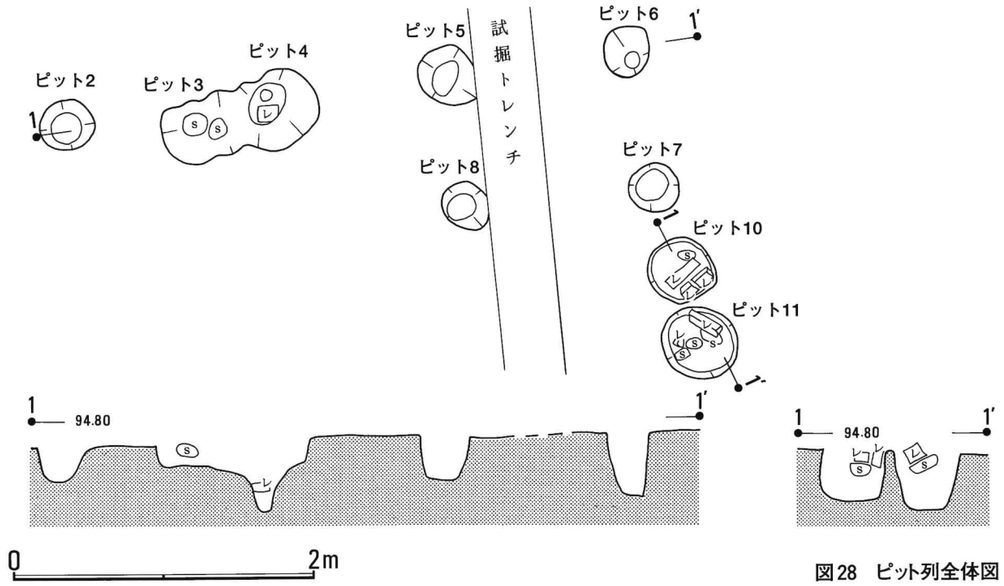


図28　ピット列全体図

2区

2区の1面の調査では、1区と同様、近代以降の面を主に調査した。2区をガス管が東西に横切るため、その部分は掘削せずに残し、区画を北側と南側に分割した。

北側の区画では、東西方向の石列と、この石列から南へ約1ｍの場所に、東西方向に並んでいる3本の杭を検出した。この杭の付近にも石列のようなものが見られたが、残りが悪く、石列とは確認できなかった。石列の石は、小さいものが20×16cm、大きいものが26×34cm程の大きさである。石列には、半分に割られた石臼や、面を平らに加工された石などが利用され、南面が東西方向に直線的に揃うよう並べられていた。石列から旧ガス管までの土面は堅く締まっており、小石が敷かれたような状態で検出されたため、道路か建物遺構であると思われた。

また、石列から南へ10cmのこの硬化面上に細長い溝が検出された。この溝は幅５～6cmで、長さ１ｍ程を確認した。石列に平行で、溝の中には細かい砂が埋まっており、雨落ち溝の可能性がある。これらの点から、石列の北側にかつて建物が存在し、建物と道路の境界に敷かれていた石列と推定される。石列の南約１ｍにある３本の杭は、この道路遺構に打たれてあるため、道路遺構と同時期のものとは考えられない。区画整理以前の地図を見ると、この場所に道路が通っており、３本の杭がちょうどこの道路跡の北端に重なる。３本の杭は、道路と北側の敷地の境界に打たれていた可能性がある。また、北側区画の南端に、東西に延びる旧ガス管を検出したが、これはこの道路内を通っていたと思われる。

南側区画では、石列や土管列、トイレ遺構などの近代の建物跡と思われる遺構を検出した。土管列は、東壁から出て西へ延び、途中で南北に分かれＴ字形をしている。東西方向の土管列は、東壁まで入れると、長さ約4.2ｍで弓形に走る。標高は、真中の土管部分が最も高く、東西両端部に近づくにつれ低くなっているが、東壁から突き出ている土管部分では再び高くなっている。南北方向の土管列は、長さ約４ｍで弓形に走る。北端部の壁際でコンクリートの桝の一部を確認した。標高は南端部が高く、北端部に近づくにつれて低くなっている。流れの方向は、土管のつなぎ方から見ても東から西へ、南から北へ流れていたものと思われる。

栗石列は南側調査区のほぼ中央で検出された。これは幅約30cmの溝に径10cm程の石を敷き詰めたもので、芯々0.9～１ｍ間隔で径30～40cm程の大きな石を配置し、直線あるいはＴ字形に走る。東壁では石列の上にコンクリートの基礎がのっており、建物の基礎構造と考えられる。周辺は灰や炭が混じる土で非常に堅く締まっている。

トイレ遺構は、南側区画のほぼ中央、栗石列に囲まれて検出された。直径0.55ｍ、深さ0.4ｍの常滑焼と見られる下甕が設置されて、甕の中は無機質のカルシウムがこびりついていた。

この他、炭殻が埋められていたＳＫ24や、擂り鉢などが出土したＳＫ26などを検出した。

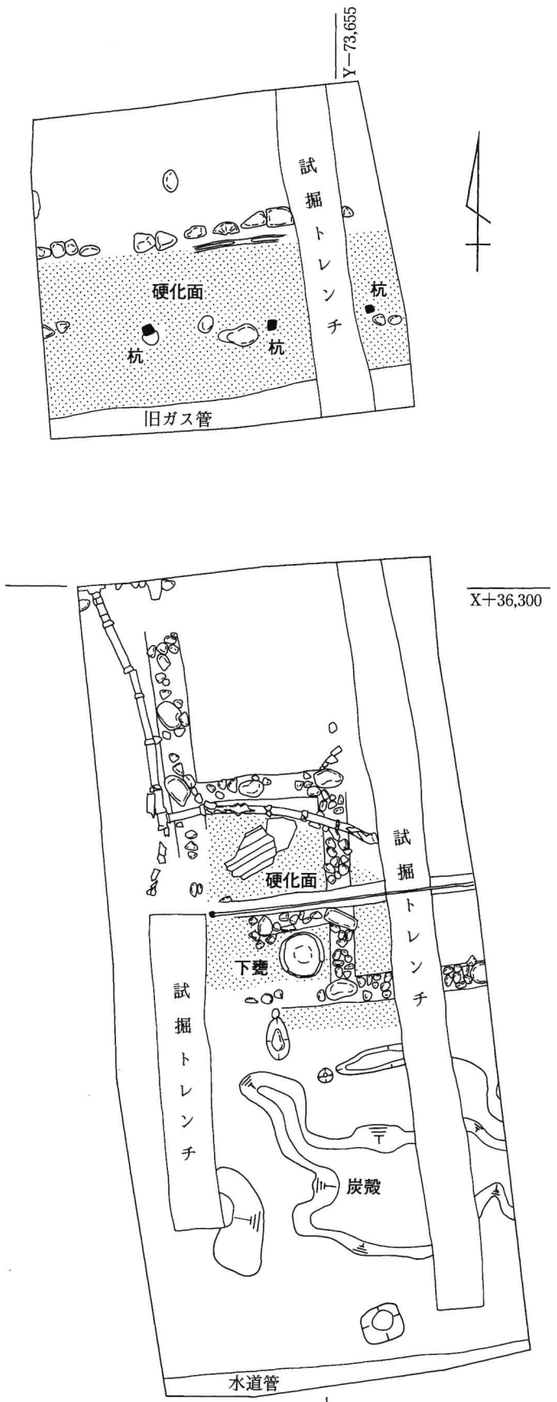


図29　2区第1面全測図

番号	器　種	出土位置	法量及び特徴（単位cm）	整理番号
001	磁器皿	1区ＳＤ04	底径9.0。蛇ノ目凹形高台。焼継ぎあり。肥前系。	1区SD04-1
002	磁器皿	1区ＳＤ04	底径8.0（推定）。焼継ぎあり。肥前系。	1区SD04-2
003	磁器皿	1区ＳＤ04	口径13.6（推定）、器高3.2、底径5.9。蛇ノ目凹形高台。瀬戸美濃。	1区SD04-4
004	磁器大碗	1区ＳＤ04	口径14.5（推定）、器高7.9、底径5.7（推定）。色絵碗。肥前系。	1区SD04-5
005	磁器碗	1区ＳＤ04	口径10.3（推定）、器高5.5、底径3.5（推定）。見込に龍あり。肥前系。	1区SD04-7
006	磁器碗	1区ＳＤ04	口径10.4（推定）、器高5.2、底径3.4（推定）。	1区SD04-9
007	磁器神酒徳利	1区ＳＤ04	底径4.6。蛸唐草文。肥前系。	1区SD04-21
008	磁器段重	1区ＳＤ04	口径7.5（推定）、器高2.5、底径6.5（推定）。色絵。肥前系。	1区SD04-17
009	磁器段重	1区ＳＤ04	口径12.0（推定）、器高5.7、底径8.6（推定）。焼継ぎあり。肥前系。	1区SD04-18
010	陶器皿	1区ＳＤ04	口径13.0（推定）、器高2.6、底径8.0（推定）。内面に鉄釉の筆描きによる蘭竹文。灰釉。口縁部にスス。	1区SD04-22
011	陶器皿	1区ＳＤ04	口径10.7（推定）、器高2.2、底径6.0。底部内外面にそれぞれ３カ所のトチン跡残る。灰釉。瀬戸美濃系。	1区SD04-23
012	陶器皿	1区ＳＤ04	口径12.0（推定）、器高2.5、底径6.2（推定）。底部内面にトチン跡あり。長石釉。瀬戸美濃系。	1区SD04-24
013	陶器碗	1区ＳＤ04	口径10.5（推定）、器高5.2、底径4.7。腰折れ形煎じ碗。灰釉と鉄釉の掛け分け。高台内施釉。瀬戸美濃系。	1区SD04-25
014	陶器碗	1区ＳＤ04	底径3.4（推定）。小杉碗。灰釉。京・信楽系。	1区SD04-28
015	陶器碗	1区ＳＤ04	底径5.2。尾呂碗。鉛釉。瀬戸美濃系。	1区SD04-29
016	陶器皿	1区ＳＤ04	口径10.6（推定）、器高1.7、底径3.8（推定）。内外面にスス。灯明皿。灰釉。瀬戸美濃系。	1区SD04-32
017	陶器秉燭	1区ＳＤ04	底径6.2。灰釉。	1区SD04-35
018	陶器蓋	1区ＳＤ04	口径8.8（推定）、器高2.1（推定）。表面のみ鉄釉。	1区SD04-36
019	陶器蓋	1区ＳＤ04	口径6.4、器高1.5。灰釉。落とし蓋形式。	1区SD04-47
020	陶器鉢	1区ＳＤ04	底径13.0（推定）。練り鉢。目跡あり。高台無釉。	1区SD04-33
021	陶器鍋	1区ＳＤ04	口径19.0（推定）。行平鍋。外面飛鉋技法。錆釉。	1区SD04-34
022	陶器鍋	1区ＳＤ04	口径20.0（推定）。土鍋。外面鉄釉。	1区SD04-37
023	土師質皿	1区ＳＤ04	口径9.1、器高2.1、底径5.9。かわらけ。回転糸切（左）	1区SD04-49
024	土師質皿	1区ＳＤ04	口径8.9、器高1.9、底径5.3。かわらけ。回転糸切（左）	1区SD04-48
025	砥　石	1区ＳＤ04	全長12.8、重量176ｇ。砥沢石。	1区SD04-44
026	硯	1区ＳＤ04	全長10.2、幅6.0、厚1.2、重量134ｇ。硯を再生して硯を作る。裏面に花？の毛彫りあり。	1区SD04-54
027	軒桟瓦	1区ＳＤ04	軒平部。	1区SD04-41
028	軒桟瓦	1区ＳＤ04	軒丸部。	1区SD04-43
029	磁器皿	2区ＳＤ04	口径12.6、器高3.8、底径4.6。見込蛇ノ目釉ハギ。肥前系。	2区SD04-1
030	磁器皿	2区ＳＤ04	口径17.4、器高2.7、底径10.6。高台内に渦福字銘あり。ハリ支え跡あり。肥前系。	2区SD04-2
031	磁器碗	2区ＳＤ04	口径6.9（推定）、器高3.1、底径2.6（推定）。丸形小碗。肥前系。	2区SD04-4
032	磁器碗	2区ＳＤ04	口径8.4、器高4.8、底径3.3。丸形小碗。肥前系。	2区SD04-5
033	磁器碗	2区ＳＤ04	口径6.8（推定）。半筒形小碗。	2区SD04-13
034	磁器碗	2区ＳＤ04	口径9.6（推定）。端反形中碗。肥前系。	2区SD04-15
035	磁器猪口	2区ＳＤ04	口径7.2（推定）。器高7.2、底径3.8。桶形猪口。肥前系。	2区SD04-16
036	磁器蓋	2区ＳＤ04	口径9.6（推定）。焼継ぎあり。蓋物蓋。	2区SD04-17
037	磁器蓋	2区ＳＤ04	口径10.8（推定）。段重蓋。肥前系。	2区SD04-18
038	磁器紅猪口	2区ＳＤ04	口径4.6（推定）。菊花形紅猪口。肥前系。	2区SD04-20
039	磁器香炉？	2区ＳＤ04	口径8.8。内面施釉。肥前系。	2区SD04-27
040	磁器瓶	2区ＳＤ04	口径1.6、器高15.2、胴部最大径8.4（推定）、底径4.2。鶴首形。肥前系。	2区SD04-21
041	磁器瓶	2区ＳＤ04	胴部最大径7.6（推定）、肥前系。	2区SD04-23
042	陶器皿	2区ＳＤ04	口径12.0（推定）、器高2.5、底径7.6（推定）。内面鉄釉蘭竹文。灰釉。高台内無釉。見込重ね焼痕あり。	2区SD04-28
043	陶器皿	2区ＳＤ04	底径6.2。見込灰釉・鉄釉掛け分け。見込蛇ノ目釉ハギ。見込重ね焼痕あり。高台削り出し。	2区SD04-29
044	陶器皿	2区ＳＤ04	底径6.8。見込緑釉。外面灰釉。見込蛇ノ目釉ハギ。高台削り出し。	2区SD04-30
045	陶器皿	2区ＳＤ04	底径5.5（推定）。灰釉。京焼風。肥前系。	2区SD04-31
046	陶器碗	2区ＳＤ04	口径9.8（推定）。器高5.7、底径4.9。灰釉？。高台内無釉。丸形中碗。	2区SD04-32
047	陶器碗	2区ＳＤ04	口径8.5、器高4.4、底径4.2。小碗。鉄釉。高台無釉。	2区SD04-33
048	陶器皿	2区ＳＤ04	口径11.0（推定）、器高2.5、底径6.0（推定）。丸形小皿。灰釉。	2区SD04-35
049	陶器皿	2区ＳＤ04	口径12.8（推定）、器高2.7、底径8.2（推定）。端反形小皿。見込鉄釉蘭竹文。長石釉。瀬戸美濃系。	2区SD04-36
050	陶器皿	2区ＳＤ04	底径5.8（推定）。菊皿。瀬戸美濃系。	2区SD04-37
051	陶器香炉	2区ＳＤ04	口径10.6（推定）、器高6.3、底径4.4（推定）。有三足半筒形。内面施釉・灰釉。陰刻文あり。瀬戸美濃系。	2区SD04-43
052	陶器香炉	2区ＳＤ04	口径13.3、器高7.0、底径8.0。有三足玉縁腰稜形。内面施釉。見込に3カ所のトチン跡残る。瀬戸美濃系。	2区SD04-44
053	陶器秉燭	2区ＳＤ04	口径3.8、器高8.8、底径7.0。手付皿台付。鉄釉。底部回転糸切。	2区SD04-48
054	陶器灯明皿	2区ＳＤ04	口径11.6、器高2.4、底径7.1。油溝アーチ状灯明受皿。錆釉。内外面にスス付着。志戸呂焼。	2区SD04-49
055	土師質皿	2区ＳＤ04	口径9.4（推定）、器高2.1、底径5.8（推定）。かわらけ。内面にスス付着。回転糸切（左）	2区SD04-69
056	土師質皿	2区ＳＤ04	口径9.8、器高2.0、底径6.0。かわらけ。回転糸切（左）	2区SD04-70
057	陶器鉢	2区ＳＤ04	口径17.5（推定）。灰釉。	2区SD04-41
058	陶器瓶	2区ＳＤ04	口径4.6。撫肩形中瓶。徳利。灰釉。瀬戸美濃系。	2区SD04-50
059	土師質蓋	2区ＳＤ04	口径8.2（推定）、器高2、底径8.2（推定）。焼塩壷蓋。内面に布痕あり。	2区SD04-71
060	陶器鉢	2区ＳＤ04	底径10.2（推定）。透明釉。三島手。目跡あり。唐津系。	2区SD04-46
061	陶器甕	2区ＳＤ04	底径13.0（推定）。半胴甕。鉄釉。瀬戸美濃系。	2区SD04-53
062	陶器片口	2区ＳＤ04	口径13.0（推定）。鉄釉。口縁端部磨滅。瀬戸美濃系。	2区SD04-47
063	陶器火鉢	2区ＳＤ04	瓶掛型火鉢。外面緑釉。内面鉄釉。	2区SD04-57
064	瓦質焙烙	2区ＳＤ04	口径35.2、器高5.5、底径32.0。内面に耳をもつ有耳焙烙。内底面に印花文あり。	2区SD04-61
065	瓦質焙烙？	2区ＳＤ04	口径17.9（推定）、器高3.1、底径17.0（推定）。	2区SD04-65
066	土師質火鉢	2区ＳＤ04	口径29.7（推定）。外面ヘラミガキ。	2区SD04-67
067	陶器擂鉢	2区ＳＤ04	口径30.0（推定）。	2区SD04-58
068	陶器擂鉢	2区ＳＤ04	底径16.0（推定）。	2区SD04-82
069	砥　石	2区ＳＤ04		2区SD04-78

番号	器　種	出土位置	法量及び特徴（単位 cm）	整理番号
070	土師質	2区 SD04	小破片のため器種不明。文字あり。	2区 SD04-60
071	軒桟瓦	2区 SD04	軒丸部。	2区 SD04-74
072	陶器碗	1区 SD01	底径 8.2（推定）。丸形大碗。腰錆。内面灰釉。内面 2 カ所にトチン跡残る。瀬戸美濃系。	S D 01 － 1
073	陶器擂鉢	1区 SD01	底径 14.6（推定）。錆釉。内外面に目跡あり。	S D 01 － 2
074	土師質皿	1区 SD01	口径 8.3（推定）、器高 2.2、底径 6.2（推定）。かわらけ。口縁部にスス付着。回転糸切 。	S D 01 － 3
075	磁器碗	1区 SD02	口径 9.6（推定）、器高 5.3、底径 4.0（推定）。丸形中碗。くらわんか碗。肥前系。	S D 02 － 1
076	磁器小坏	1区 SD02	口径 5.4（推定）、器高 1.9、底径 1.8（推定）。	S D 02 － 2
077	磁器猪口	1区 SD02	口径 7.1（推定）。端反形。肥前系。	S D 02 － 3
078	磁器碗	1区 SD02	口径 7.1（推定）、器高 3.9、底径 3.1（推定）。端反形小碗。	S D 02 － 4
079	陶器皿	1区 SD02	底径 6.2。花形皿。型押成形。灰釉。瀬戸美濃系。	S D 02 － 5
080	陶器皿	1区 SD02	口径 12.8（推定）、器高 3.4、底径 6.4。折縁形小皿。輪禿皿。長石釉。瀬戸美濃系。	S D 02 － 6
081	陶胎磁器碗	1区 SD02	底径 4.8。	S D 02 － 7
082	土師質皿	1区 SD02	口径 10.2（推定）、器高 2.0、底径 6.2（推定）。かわらけ。回転糸切（左）。	S D 02 －10
083	陶器甕	1区 SD02	口径 10.2（推定）。小甕。鉄釉。	S D 02 － 9
084	陶器片口?	1区 SD02	口径 16.0（推定）。灰釉。瀬戸美濃系	S D 02 － 8
085	陶器甕	1区 SD03	底径 15.6（推定）。半胴甕。鉄釉。	S D 03 － 3
086	陶器碗	1区 SD03	口径 10.4（推定）、器高 6.2、底径 4.4。丸形中碗。透明釉。	S D 03 － 1
087	陶器鉢形容器	1区 SD03	口径 5.3（推定）、器高 4.1、底径 3.2（推定）。内面無釉。外面灰釉。瀬戸美濃系。	S D 03 － 2
088	陶器皿	1区 SD12	口径 11.0（推定）、器高 1.7、底径 5.4（推定）。灯明油皿。錆釉。瀬戸美濃系。	S D 12 － 2
089	陶器蓋	1区 SD14	口径 10.8（推定）、器高 1.7。灰釉。瀬戸美濃系。	S D 14 － 1
090	磁器蓋	1区 SD14	口径 11.4（推定）、器高 3.8。肥前系。	S D 14 － 2
092	磁器碗	2区 SK34	口径 7.0、器高 4.4、底径 3.0。端反形小碗。肥前系。	S K 34 － 2
093	磁器碗	2区 SK34	口径 7.6（推定）、器高 4.3、底径 3.4（推定）。丸形小碗。肥前系	S K 34 － 3
094	磁器碗	2区 SK34	口径 9.5（推定）、器高 5.2、底径 3.7。端反形中碗。肥前系。	S K 34 － 4
095	磁器碗	2区 SK34	口径 10.0（推定）、器高 5.5、底径 5.5（推定）、広東形中碗。肥前系。	S K 34 － 6
096	磁器仏飯器	2区 SK34	口径 6.8、器高 6.3、底径 4.0。台底輪高台形。肥前系。	S K 34 －18
097	磁器鉢	2区 SK34	口径 15.0、器高 8.4、底径 8.0（推定）。八角中鉢。焼継ぎあり。肥前系。	S K 34 － 8
098	磁器段重	2区 SK34	口径 13.8（推定）、器高 6.5、底径 10.4（推定）。口縁端部及び内部釉ハギ。肥前系。	S K 34 － 9
099	磁器蓋	2区 SK34	口径 9.0、器高 3.4。小碗蓋。瀬戸美濃系。	S K 34 －13
100	磁器蓋	2区 SK34	口径 10.6（推定）。段重蓋。肥前系。	S K 34 －12
101	磁器瓶	2区 SK34	底径 4.5、胴部最大径 6.6。肥前系。	S K 34 －15
102	磁器瓶	2区 SK34	口径 1.5（推定）、器高 5.5、底径 4.8（推定）、胴部最大径 7.5（推定）。髪油壷。蛸唐草文。肥前系。	S K 34 －16
103	陶器皿	2区 SK34	口径 12.4（推定）、器高 3.3、底径 8.4。菊皿。灰釉。内面 3 カ所にトチン跡残る。瀬戸美濃系。	S K 34 －20
104	陶器碗	2区 SK34	口径 10.0（推定）、器高 5.2、底径 4.5（推定）。端反形中碗。京焼風。	S K 34 －21
105	陶器鉢形容器	2区 SK34	口径 5.0（推定）、器高 4.6、底径 3.5（推定）。内面無釉。外面灰釉。瀬戸美濃系。	S K 34 －23
106	陶器皿	2区 SK34	口径 7.8、器高 1.9、底径 3.8。灯明油皿。鉛釉。瀬戸美濃系。	S K 34 －24
107	陶器皿	2区 SK34	口径 10.2、器高 2.1、底径 3.8。灯明油皿。鉄釉。見込重ね焼痕あり。瀬戸美濃系。	S K 34 －25
108	陶器壷	2区 SK34	口径 7.5（推定）。双耳瀬戸壷形小壷。黄釉。瀬戸美濃系。	S K 34 －26
109	陶器秉燭	2区 SK34	口径 5.0、器高 4.6、底径 4.0。台付たんころ形底部軸孔あり。鉄釉。瀬戸美濃系。	S K 34 －27
110	陶器皿	2区 SK34	口径 10.5（推定）、器高 2.7、底器 5.6（推定）。稜皿形小皿。錆釉。回転糸切。見込重ね焼痕あり。	S K 34 －29
111	陶器蓋	2区 SK34	口径 7.2、器高 2.1、底径 3.7。鉄釉。落とし蓋形式。	S K 34 －30
112	陶器灯明台	2区 SK34	口径 6.0（推定）。灰釉。瀬戸美濃系。	S K 34 －31
113	陶器壷	2区 SK34	底径 8.0（推定）。灰釉。内面赤色物付着。肩衝形小壷。瀬戸美濃系。	S K 34 －32
114	陶器土瓶	2区 SK34	口径 7.0（推定）。器高 12.0、底径 7.5（推定）、算盤玉形。体部下位～底部スス付着。灰釉。三足。	S K 34 －36
115	陶器土瓶	2区 SK34	口径 6.4、器高 9.8、底径 6.2。三足イキ丸形。体部下位～底部スス付着。緑釉。相馬大堀系。	S K 34 －37
116	陶器鉢	2区 SK34	口径 27.0（推定）、捏鉢。灰釉。	S K 34 －34
117	陶器鉢	2区 SK34	底径 21.5。底部に丸い足が 3 カ所つく。鉄釉。内面に 4 カ所の目跡が残る。	S K 34 －35
118	土師質鉢?	2区 SK34	口径 9.8（推定）、器高 6.4、底径 5.6（推定）。回転糸切。	S K 34 －33
119	砥石	2区 SK34	溝幅の細い場所や太い場所があり、複数種類の刃物を研いだものと見られる。	S K 34 －41
120	陶器甕	2区 SK30	底径 19.5。体部下位に墨書文字あり。「命印丸」	S K 30 － 1
121	磁器碗	2区 SK32	口径 10.2。広東形中碗。高台端部欠損。肥前系。	S K 32 － 1
122	陶器皿	2区 SK27	口径 7.0、器高 1.5、底径 4.2。平形無高台極小皿。見込に重ね焼痕あり。灰釉。瀬戸美濃系。	S K 27 － 1
123	陶器鍋	2区 SK27	口径 16.2。行平鍋。錆釉。内面灰釉。飛鉋。取手欠落。	S K 27 － 6
124	陶器瓶	2区 SK27	口径 3.0、器高 32.7、底径 14.2。徳利。体部に 3 カ所鉄釉書あり。「寄合町」「平野屋」「㊙」。灰釉。	S K 27 － 2
125	陶器瓶	2区 SK27	口径 2.5、器高 27.2、底径 10.0。徳利。体部に 3 カ所鉄釉書あり。「新𠮷町」「吉村酒店」「舎」灰釉。	S K 27 － 3
126	陶器瓶	2区 SK27	口径 2.7、器高 22.4、底径 7.6。徳利。体部に 2 カ所藍書あり。「枡屋」「㊞」。灰釉。	S K 27 － 4
127	陶器湯たんぽ	2区 SK27	長さ 26.5、幅 14.8、高さ 12.3。一方の小口面は無釉。	S K 27 － 5
128	磁器皿	1区 SK21	口径 9.8（推定）、器高 3.0、底径 4.8。丸形小皿。見込五弁花。高台内に渦福字銘あり。	S K 21 － 1
129	磁器皿	1区 SK21	底径 7.4（推定）。丸形小皿。肥前系。	S K 21 － 2
130	磁器碗	1区 SK21	底径 4.0。丸形中碗。肥前系。	S K 21 － 4
131	磁器碗	1区 SK21	口径 7.8（推定）、器高 3.7、底径 2.5。丸形小碗。肥前系	S K 21 － 5
132	磁器瓶	1区 SK21	底径 5.2。肥前系。	S K 21 － 6
133	磁器仏飯具	1区 SK21	口径 7.7（推定）。雨降り文。肥前系。	S K 21 － 7
134	磁器仏飯具	1区 SK21	底径 3.6。台底輪高台。肥前系。	S K 21 － 8
135	磁器香炉	1区 SK21	口径 8.1（推定）。青磁。肥前系。	S K 21 －14
136	磁器仏花瓶	1区 SK21	口径 9.6（推定）。青磁。肥前系。	S K 21 －15
137	陶胎磁器碗	1区 SK21	底径 7.7。丸形大碗。	S K 21 －10
138	陶器碗	1区 SK21	口径 8.8（推定）、器高 4.6（推定）、底径 3.8（推定）。腰折形小碗。透明釉。上絵付。	S K 21 －11
139	陶器土瓶	1区 SK21	口径 5.8（推定）。灰釉。	S K 21 －16

番号	器　種	出土位置	法量及び特徴（単位 cm）	整理番号
140	陶器皿	1区ＳＫ21	口径 11.3（推定）、器高 2.1、底径 5.7（推定）。灯明受皿。錆釉。	ＳＫ 21 －12
141	陶器皿	1区ＳＫ21	口径 7.8（推定）、器高 1.4、底径 4.4（推定）。平形小皿。灯明油皿。鉛釉。	ＳＫ 21 －13
142	陶器取手	1区ＳＫ21	行平鍋の取手とみられる。鉄釉。	ＳＫ 21 －17
143	陶器碗	1区ＳＫ15	口径 9.2（推定）。丸形中碗。腰錆。内面灰釉。瀬戸美濃系。	ＳＫ 15 － 4
144	陶器蓋	1区ＳＫ15	口径 5.6（推定）。土瓶の蓋とみられる。緑釉。相馬大堀系。	ＳＫ 15 － 6
145	陶器碗	1区ＳＫ12	口径 9.2（推定）。腰折形中碗。煎じ碗。鉄絵。灰釉。京・信楽系？	ＳＫ 12 － 4
146	陶器碗	1区ＳＫ12	口径 9.2、器高 5.0、底径 3.2。小杉碗。鉄絵。若杉文。灰釉。京・信楽系。	ＳＫ 12 － 6
147	陶器碗	1区ＳＫ12	口径 9.4（推定）、器高 4.6、底径 3.4（推定）。腰折形中碗。煎じ碗。鉄絵。灰釉。目跡あり。	ＳＫ 12 － 7
148	陶器碗	1区ＳＫ11	口径 11.6、器高 4.6、底径 4.0。平形中碗。	ＳＫ 11 － 1
149	土師質鉢	1区ＳＫ11	口径 27.7（推定）、器高 17.0、底径 20.0。植木鉢。	ＳＫ 11 － 3
150	土師質鉢	1区ＳＫ11	口径 23.6（推定）、器高 15.4、底径 18.8（推定）。植木鉢。	ＳＫ 11 － 2
151	瓦質鉢	1区ＳＫ10	口径 22.0（推定）、器高 13.6、底径 15.0（推定）。	ＳＫ 10 － 9
152	磁器碗	1区ＳＫ10	口径 8.4（推定）、器高 4.9、底径 3.1。丸型小碗。くらわんか碗。肥前系。	ＳＫ 10 － 3
153	磁器蓋	1区ＳＫ10	口径 11.5、器高 4.2、つまみ径 3.0。内面に「I tomi china K.I ALLIED FORCES」銘あり。	ＳＫ 10 － 4
154	磁器皿	1区ＳＫ02	口径 20.8（推定）、器高 4.1、底径 12.4（推定）。盤形中皿。口錆。高台内に「□□年製」銘あり、肥前系。	ＳＫ 02 － 1
155	陶器皿	1区ＳＫ02	口径 13.0（推定）、器高 3.5、底径 6.5。丸形小皿。内外面呉須絵。灰釉。瀬戸美濃系。	ＳＫ 02 － 8
156	磁器鉢	1区ＳＫ02	口径 22.0（推定）、器高 11.2、底径 8.4。漆継ぎ後に焼継ぎあり。見込五弁花文。高台内「冨貴長春」銘。	ＳＫ 02 － 4
157	陶器碗	1区ＳＫ02	口径 12.0（推定）、器高 7.5、底径 5.4。呉器形中碗。透明釉。上絵。	ＳＫ 02 －11
158	陶器碗	1区ＳＫ02	口径 12.5（推定）、器高 5.9、底径 5.0（推定）。夫目形大碗。鉄釉。瀬戸美濃系。	ＳＫ 02 －12
159	陶器碗	1区ＳＫ02	口径 7.6（推定）、器高 3.7、底径 4.0（推定）。小碗。鉄釉。瀬戸・美濃系。	ＳＫ 02 － 9
160	陶器秉燭	1区ピット14	口径 4.5、器高 4.9、底径 3.5。台付たんころ形底部軸孔あり。鉄釉。瀬戸・美濃系。	ピット14- 1
161	磁器皿	1区２面	口径 13.2(推定)、器高 3.8、底径 7.8。丸形小皿。見込五弁花のみコンニャク判。高台内渦福字銘。肥前系。	1区2面- 2
162	磁器皿	1区２面	口径 13.6（推定）、器高 2.9、底径 7.8（推定）。丸形小皿。蛇ノ目凹形高台。肥前系。	1区2面- 3
163	磁器碗	1区２面	口径 9.6（推定）、器高 5.0、底径 4.2。丸形中碗。くらわんか碗。コンニャク判。肥前系。	1区2面- 4
164	磁器蓋	1区２面	口径 9.2（推定）、器高 3.2、つまみ径 4.0。中碗蓋。瀬戸美濃系？	1区2面- 7
165	陶器皿	1区２面下層	口径 13.8（推定）、器高 3.0、底径 4.8（推定）。端反形小皿。灰釉。瀬戸美濃系。	1区2面-11
166	陶器碗	1区２面	底径 4.8。鉄絵。山水文。灰釉。京焼風。唐津系。	1区2面-13
167	磁器蓋物	1区２面	口径 13.0（推定）、器高 8.1、底径 12.4（推定）。焼継ぎあり。肥前系。	1区2面- 9
168	陶器碗	1区２面	口径 9.4（推定）、器高 4.5、底径 4.4（推定）。腰折形中碗。煎じ碗。透明釉。京・信楽系？	1区2面-15
169	陶器瓶	1区２面	底径 7.4（推定）。灰釉。瀬戸美濃系。	1区2面-25
170	磁器	1区２面	口径 12.5（推定）、器高 7.1、底径 5.8（推定）。青磁。	1区2面-27
171	陶器皿	1区２面	口径 8.4、器高 1.6、底径 3.8。灯明受皿。油溝切立状。錆釉。	1区2面-20
172	陶器皿	1区２面	口径 7.2、器高 1.7、底径 3.2。灯明受皿。油溝切立状。重ね焼痕あり。錆釉。	1区2面-32
173	陶器灯明受皿	1区２面	底径 5.8。台付灯明受皿。灰釉。瀬戸美濃系。	1区2面-22
174	陶器仏花瓶	1区２面	底径 5.4。灰釉・鉄釉の掛け分け。回転糸切（左）	1区2面-23
175	陶器餐盤	1区２面	器高 4.0。灰釉。鉄絵。瀬戸美濃系。	1区2面-18
176	陶器鉢	1区２面	底径 13.5（推定）。大鉢。三島手。見込に砂目跡残る。唐津焼。	1区2面-28
177	磁器碗	2区２面	口径 11.3（推定）、器高 6.0、底径 4.4（推定）。丸形中碗。瀬戸美濃系？	2区2面- 3
178	磁器鉢	2区２面	口径 11.8（推定）、器高 6.1、底径 5.6（推定）。小鉢。瀬戸美濃系？	2区2面- 4
179	磁器碗	2区２面	口径 8.1、器高 5.2、底径 3.2。丸形小碗。肥前系。	2区2面- 7
180	磁器皿	2区２面	口径 7.7、器高 2.2、底径 2.2。紅猪口。瀬戸美濃系。	2区2面- 2
181	磁器小坏	2区２面	口径 4.4（推定）、器高 2.9、底径 2.1。高台内に銘あり。	2区2面- 9
182	磁器蓋	2区２面	口径 7.6、器高 2.7。蓋物蓋。肥前系。	2区2面-10
183	陶器皿	2区２面	口径 12.2（推定）、器高 2.7、底径 5.2（推定）。灰釉。見込に重ね焼痕あり。高台内外にスス付着。	2区2面-14
184	陶器皿	2区２面	口径 13.8、器高 2.7、底径 7.0。折縁形中皿。灰釉。瀬戸美濃系。	2区2面-18
185	磁器瓶	2区２面	底径 6.8。肥前系。	2区2面-13
186	古　銭	1区ＳＫ10	直径 2.45、孔径 0.6。永楽通宝。	ＳＫ 10-10-1
187	古　銭	1区ＳＫ10	直径 2.45、孔径 0.6。永楽通宝。	ＳＫ 10-10-2
188	古　銭	1区ＳＫ10	直径 2.45、孔径 0.6。永楽通宝。 } 5 枚重なって出土	ＳＫ 10-10-3
189	古　銭	1区ＳＫ10	直径 2.45、孔径 0.6。永楽通宝。	ＳＫ 10-10-4
190	古　銭	1区ＳＫ10	直径 2.45、孔径 0.6。永楽通宝。	ＳＫ 10-10-5
191	古　銭	1区表採	直径 2.3、孔径 0.65。寛永通宝。	1区表採-1
192	古　銭	1区１面	直径 2.2、孔径 0.65。寛永通宝。	1区1面-12
193	古　銭	2区１面	直径 2.4、孔径 0.65。寛永通宝。	2区1面- 9
194	古　銭	2区試掘トレ	直径 2.8、孔径 0.65。寛永通宝。	2区試掘-1
195	煙　管	2区ＳＫ32	全長 4.5、火皿部径 1.3。径 0.85。雁首。	ＳＫ 32 －2
196	煙　管	2区ＳＫ34	径 1.1。雁首。	ＳＫ 34 － 38
197	煙　管	1区１面	径 1.3。雁首。	1区1面-11
198	煙　管	2区ＳＫ34	径 0.9。吸口。	ＳＫ 34 － 39
199	煙　管	2区ＳＤ04	全長 6.4、径 0.9。吸口。	2区 SD04-85
200	ミニチュア	1区２面	径 2.6。陶器蓋。黄釉。	1区2面-33
201	ミニチュア	1区２面	径 3.7。陶器蓋。鉄釉。	1区2面-34
202	ミニチュア	2区試掘トレ	径 2.5。陶器蓋。鉄釉。	2区試掘-2
203	ミニチュア	1区ＳＫ02	径 3.4。土師質蓋。無釉。	ＳＫ 02 － 19
204	ミニチュア	1区１面	口径 3.3、器高 1.9、底径 1.9、陶器擂鉢。鉄釉。	1区1面-13
205	ミニチュア	1区ＳＤ04	口径 2.2、器高 1.5、底径 2.6。土師質。無釉。回転糸切（左）	1区 SD04-50
206	ミニチュア	325.	口径 2.2、器高 1.1、底径 0.9。磁器碗。外面菊花様を呈す。	325. － 2
207	ミニチュア	2区ＳＫ23	口径 3.0、器高 2.1、底径 2.1。陶器釜。外面上位緑釉。	ＳＫ 23 － 1
208	ミニチュア	1区ＳＫ21	径 2.4。陶器蓋。緑釉。	ＳＫ 21 － 19
209	ミニチュア	1区ＳＫ21	径 2.6。陶器蓋。黄釉。	ＳＫ 21 － 20

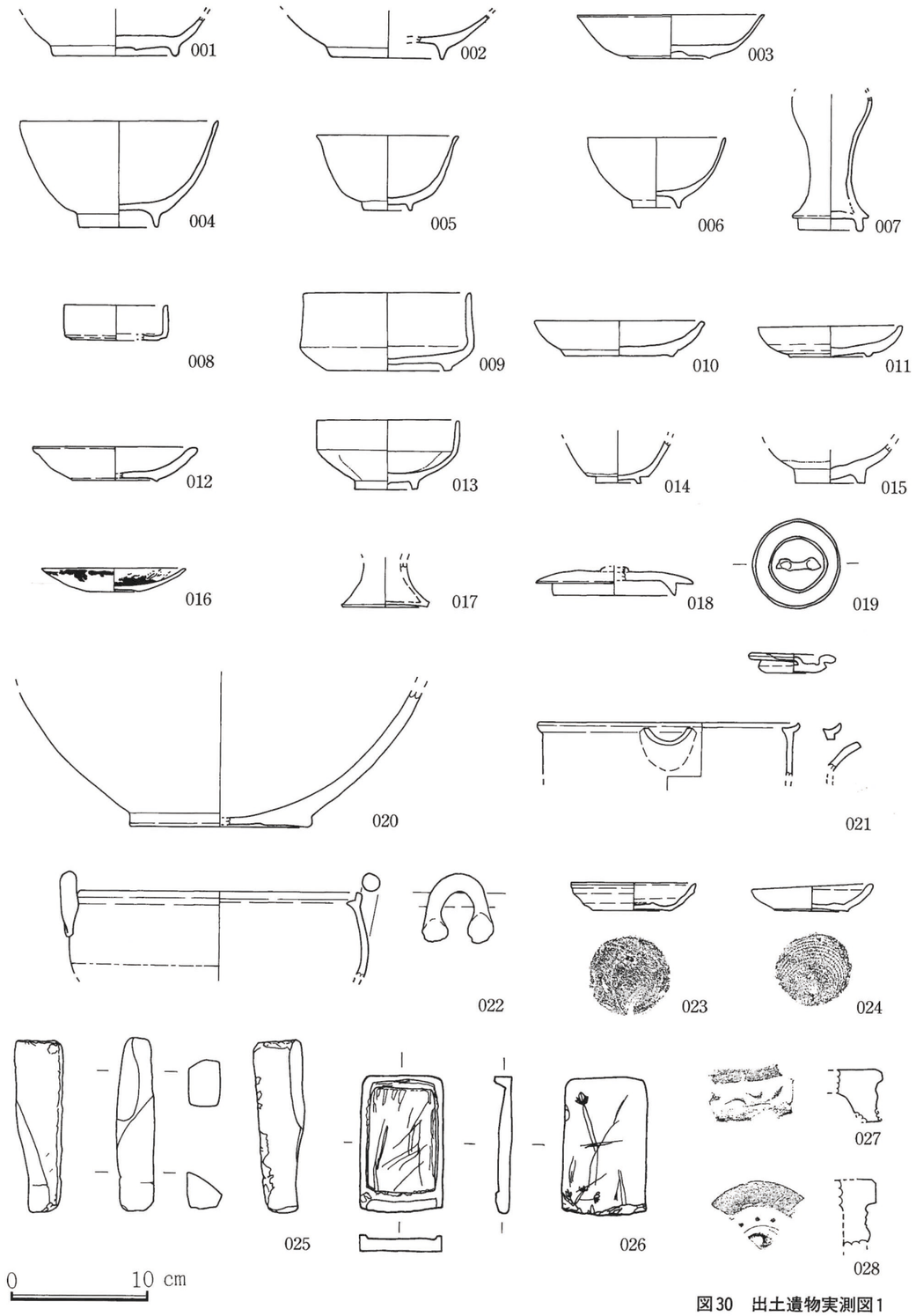
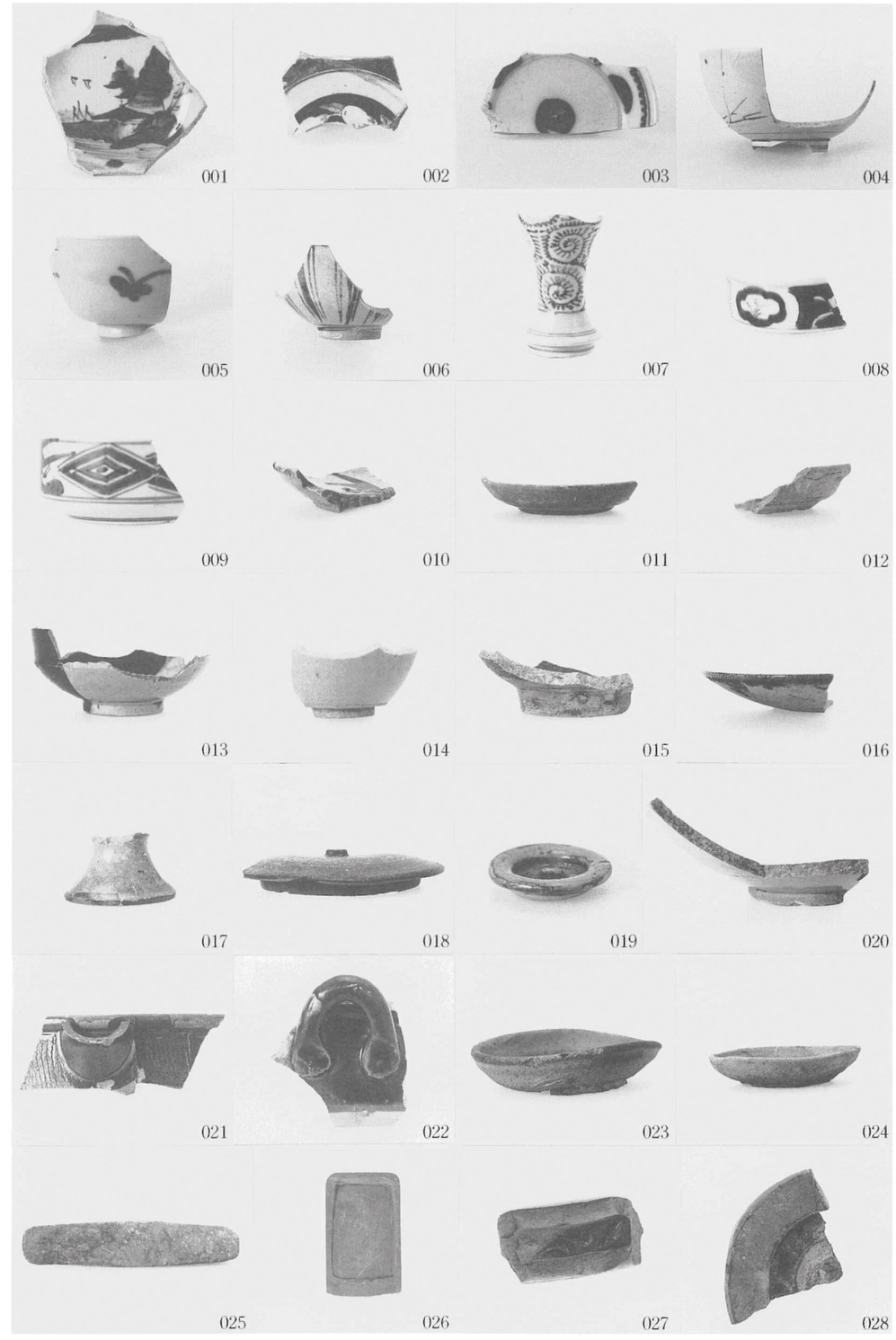


図30　出土遺物実測図1



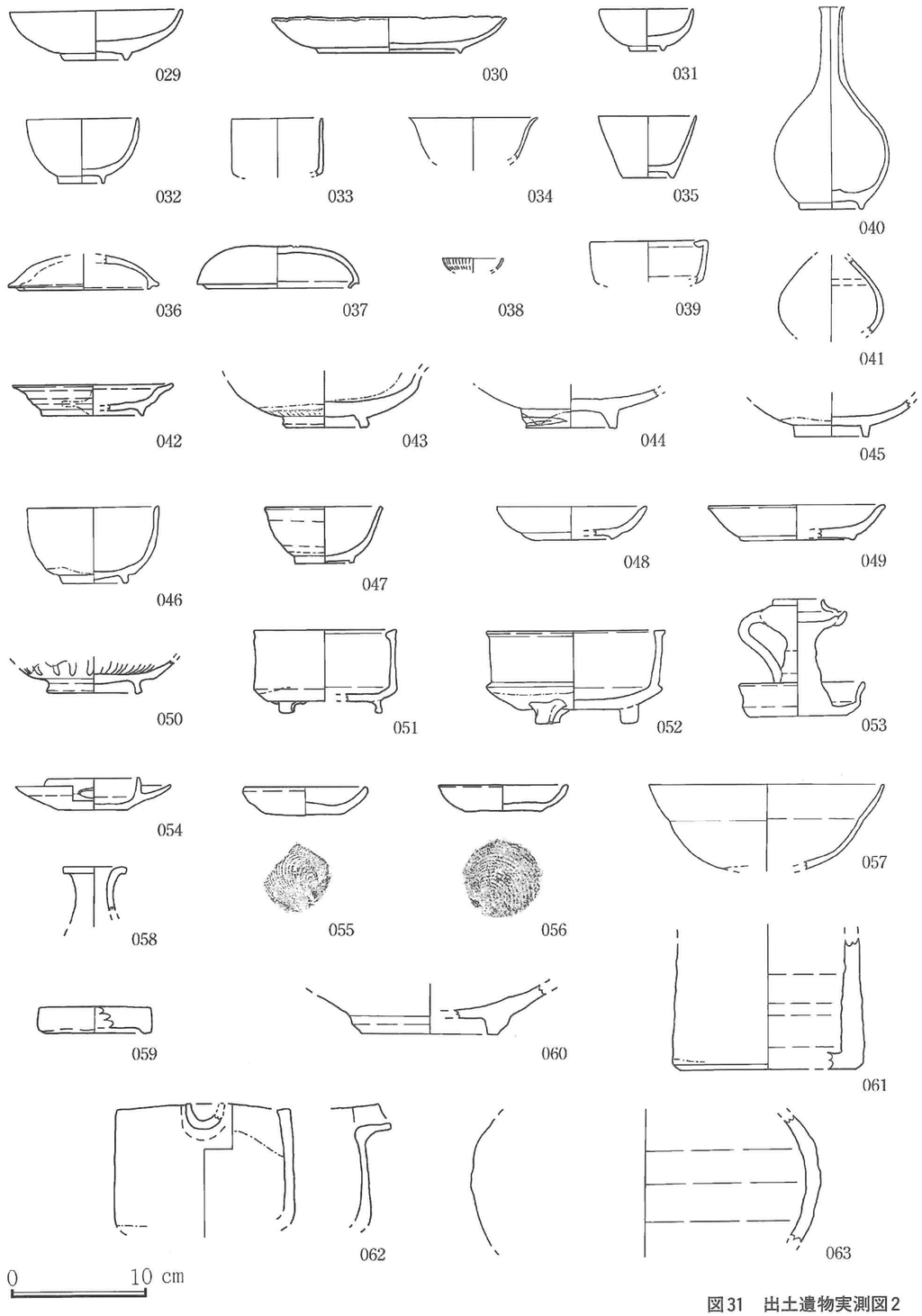
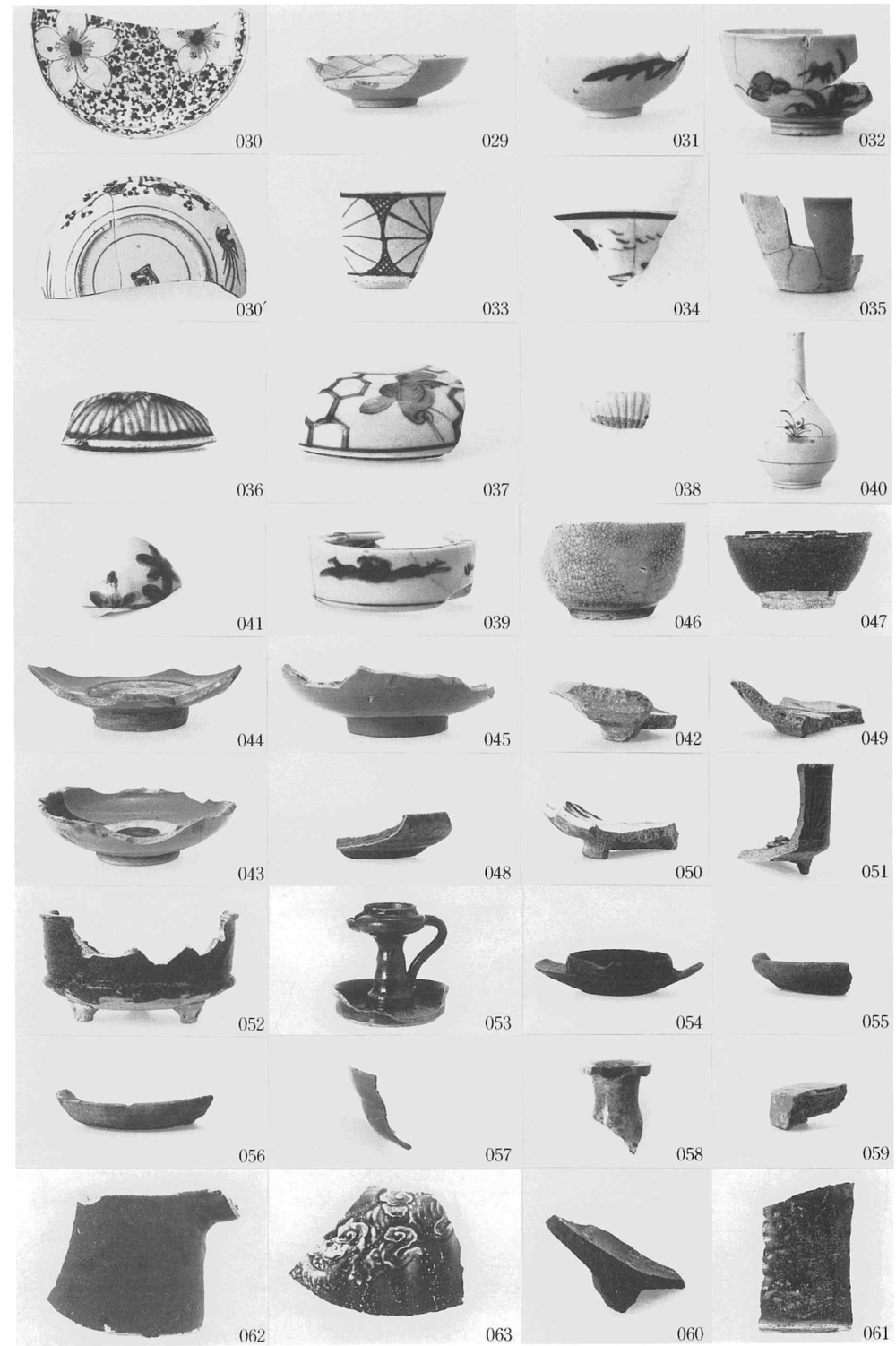


図31　出土遺物実測図2



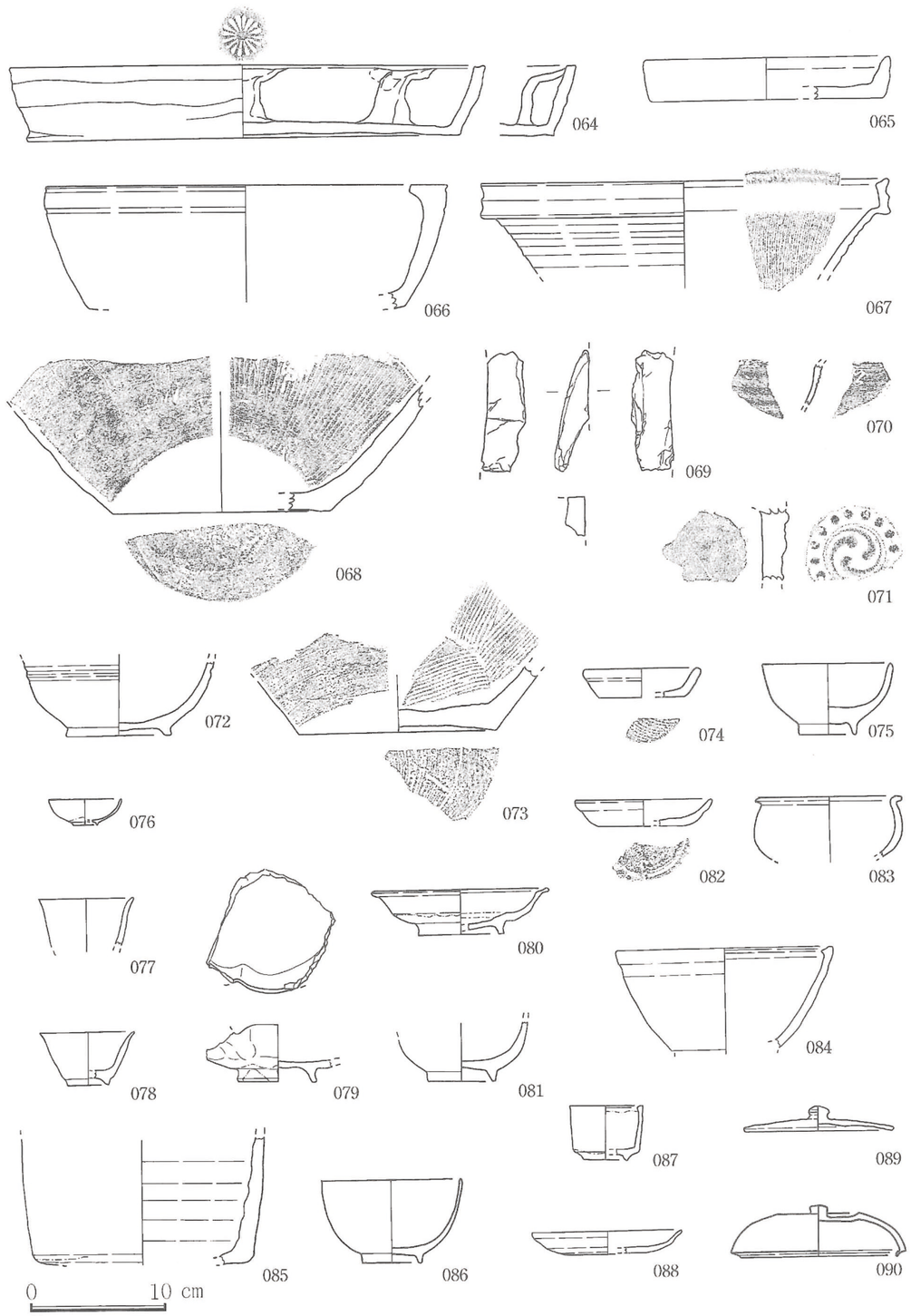


図32　出土遺物実測図3

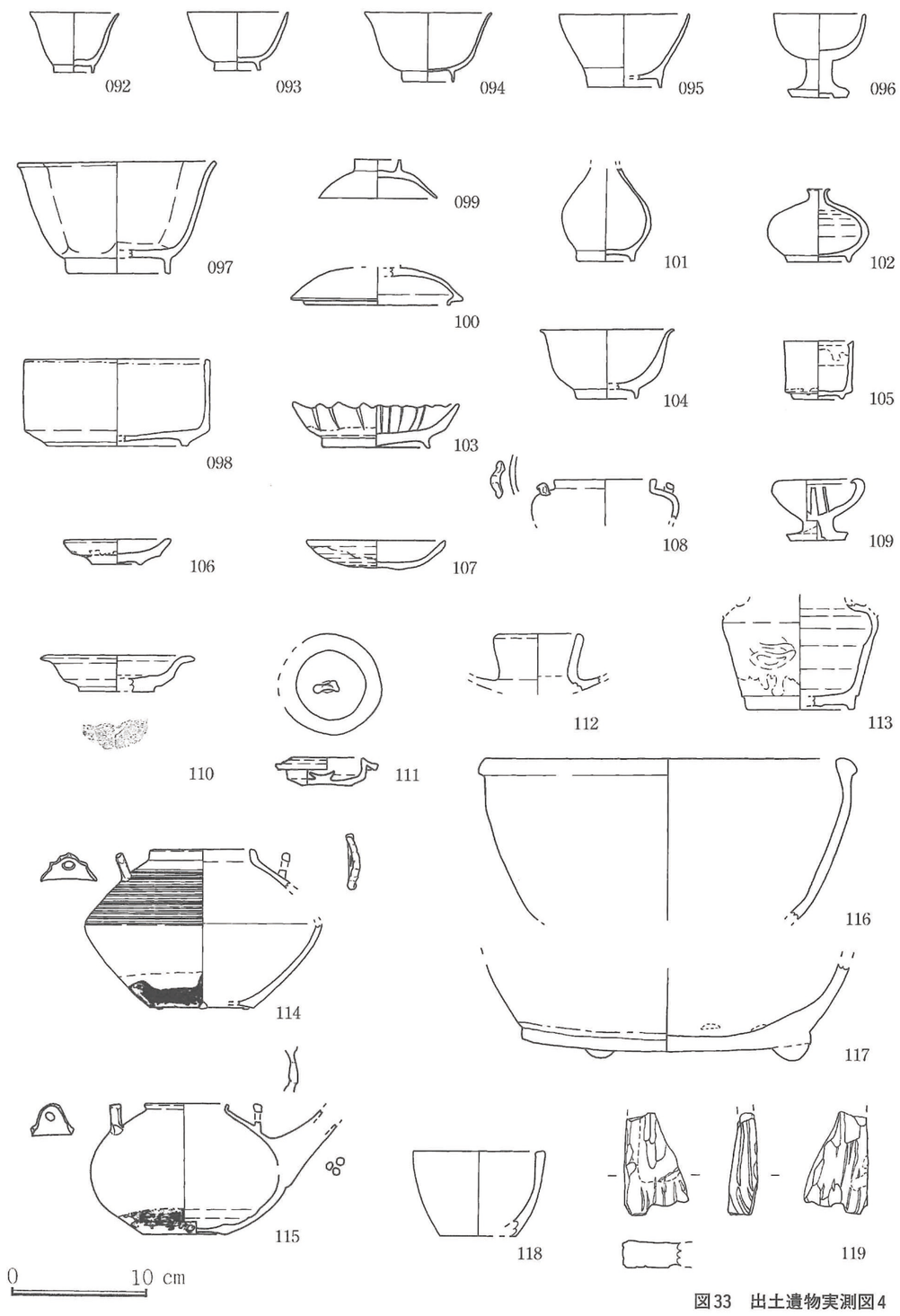
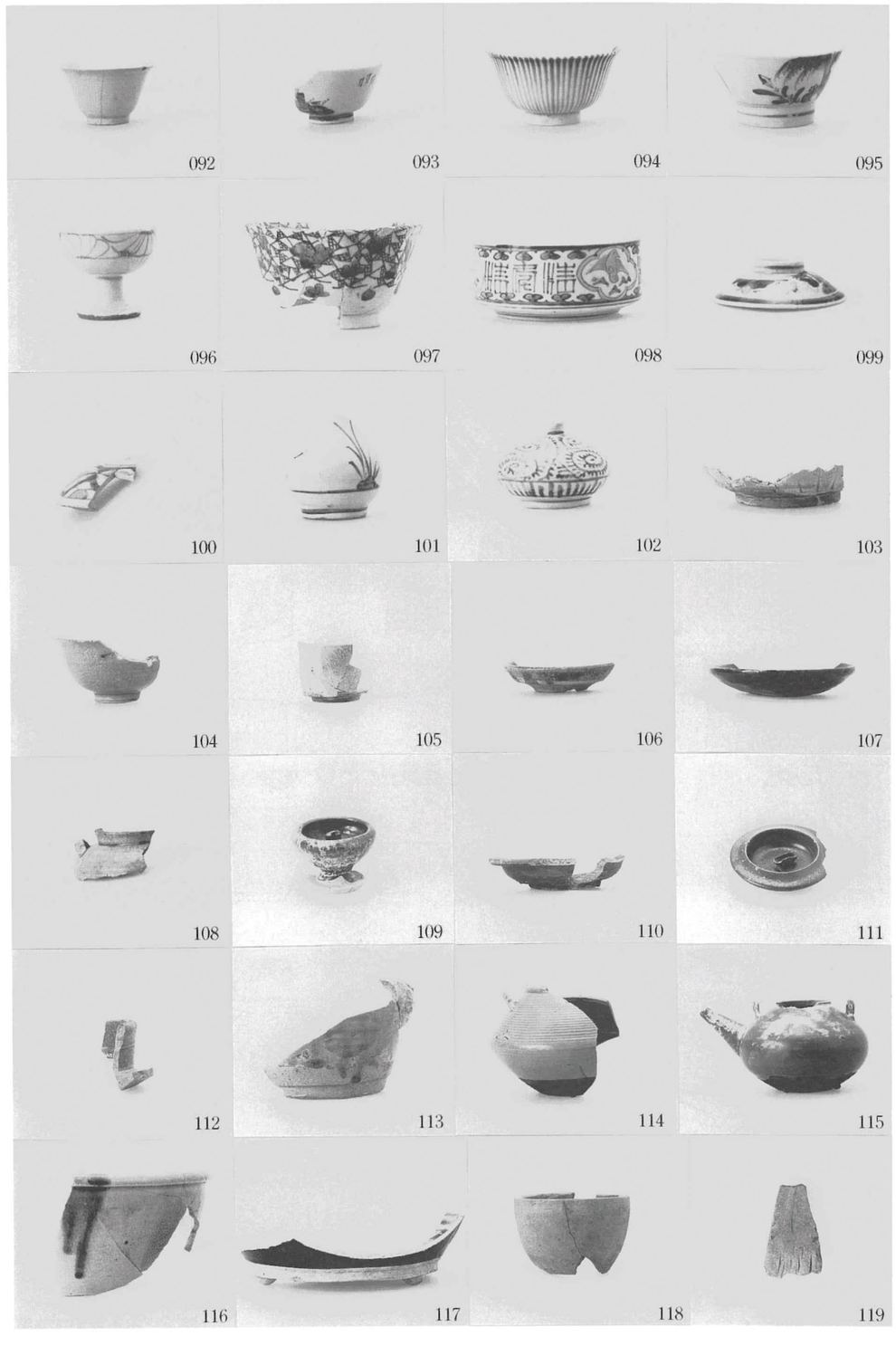
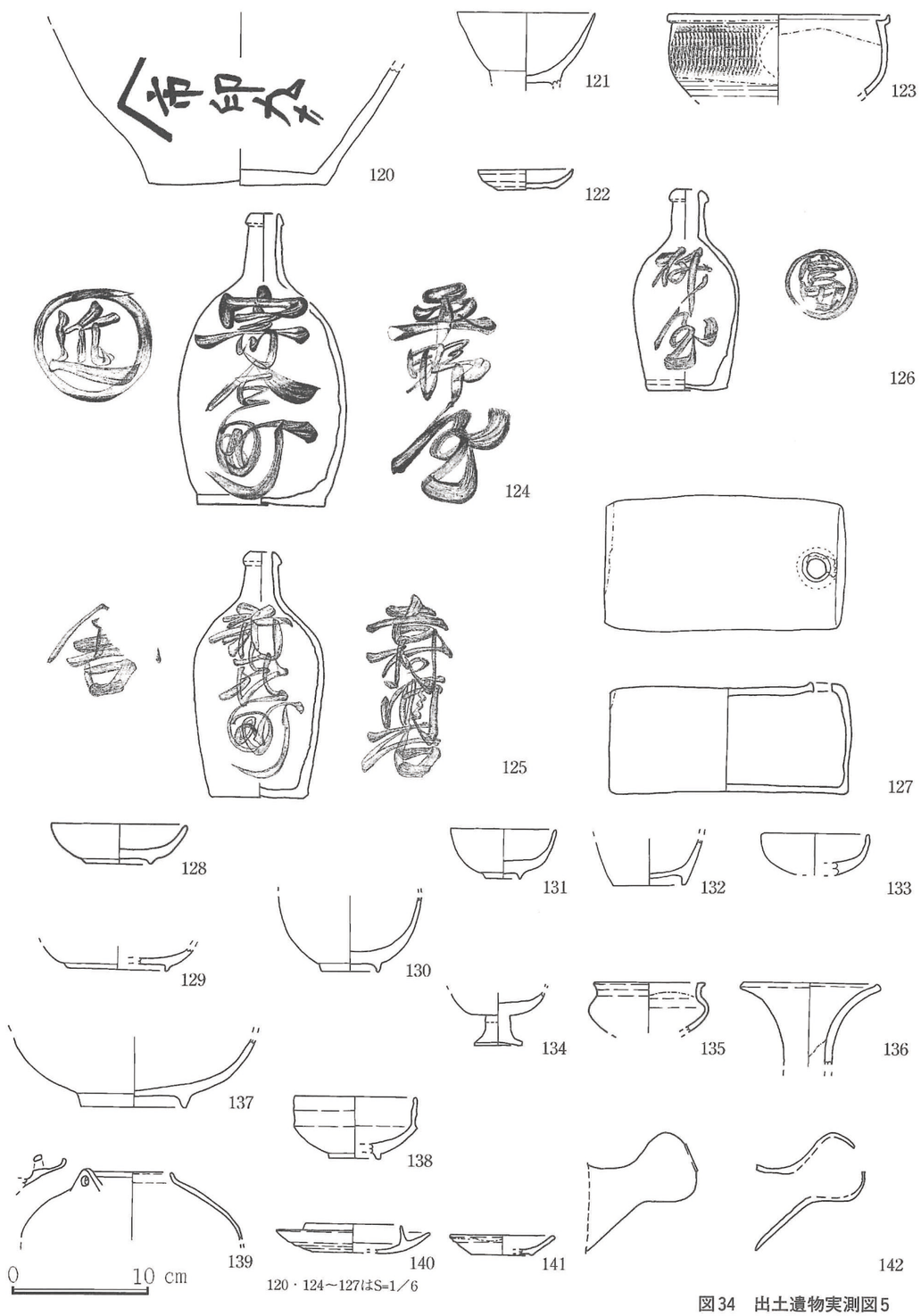


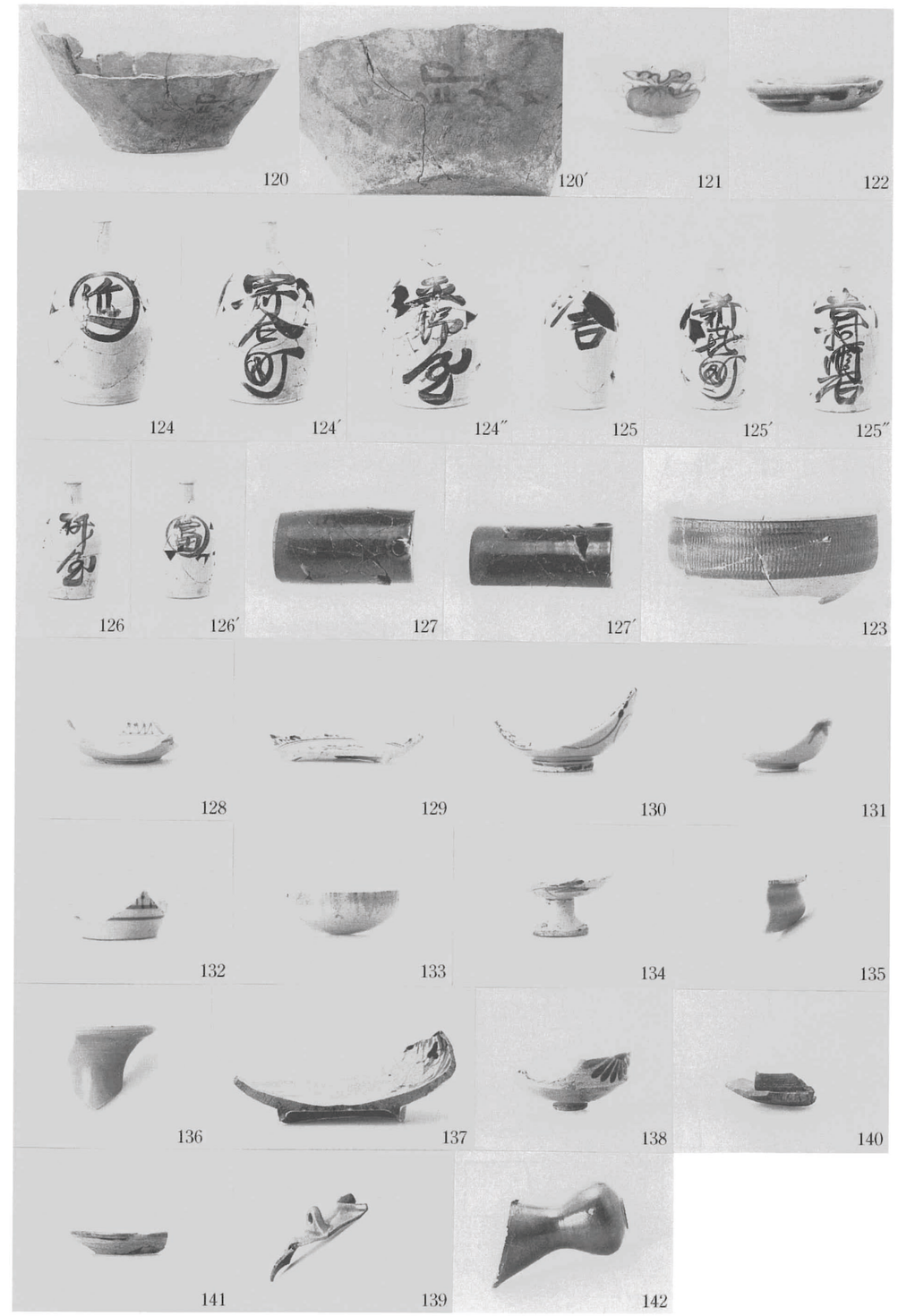
図33　出土遺物実測図4





120・124～127はS=1／6

図34　出土遺物実測図5



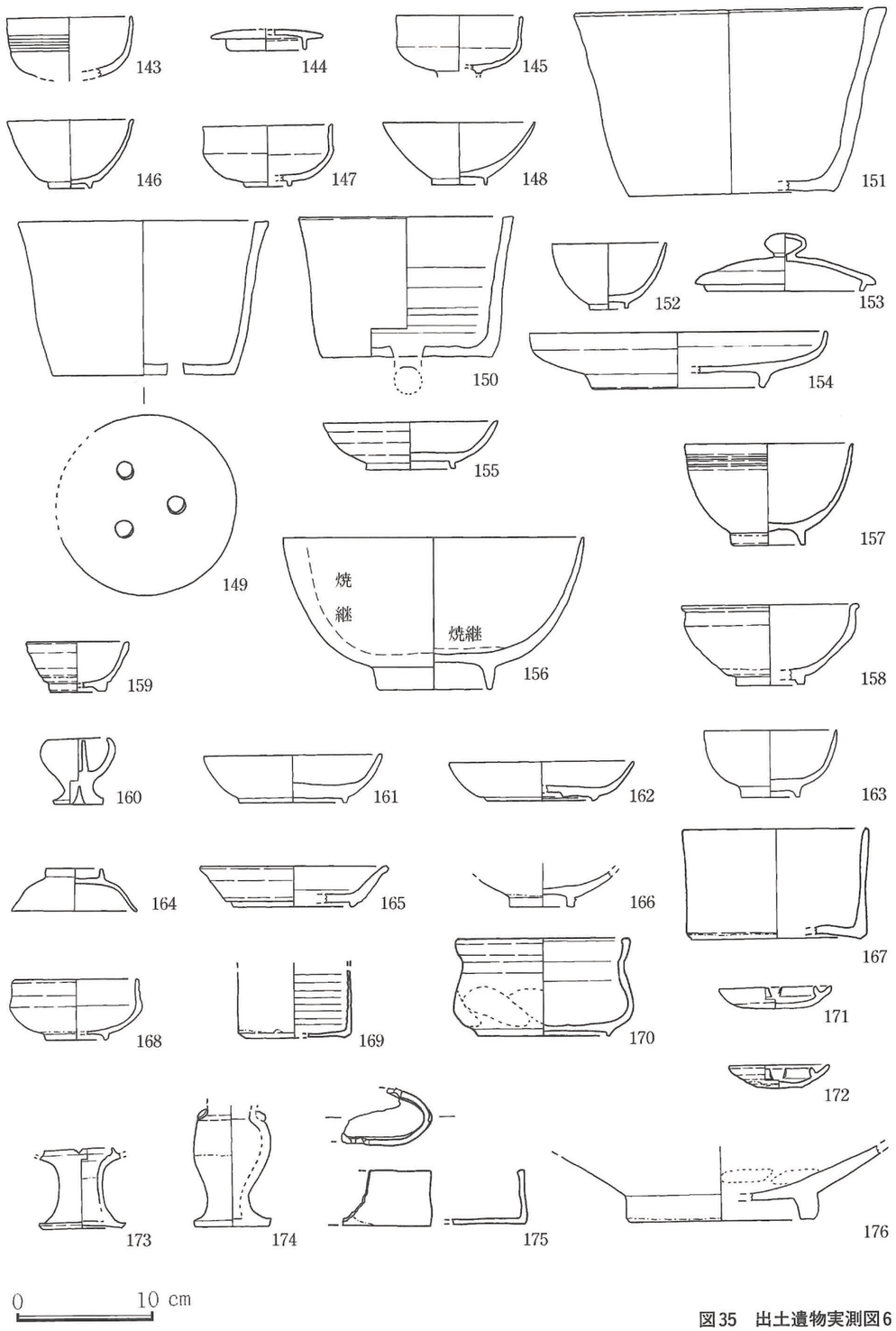
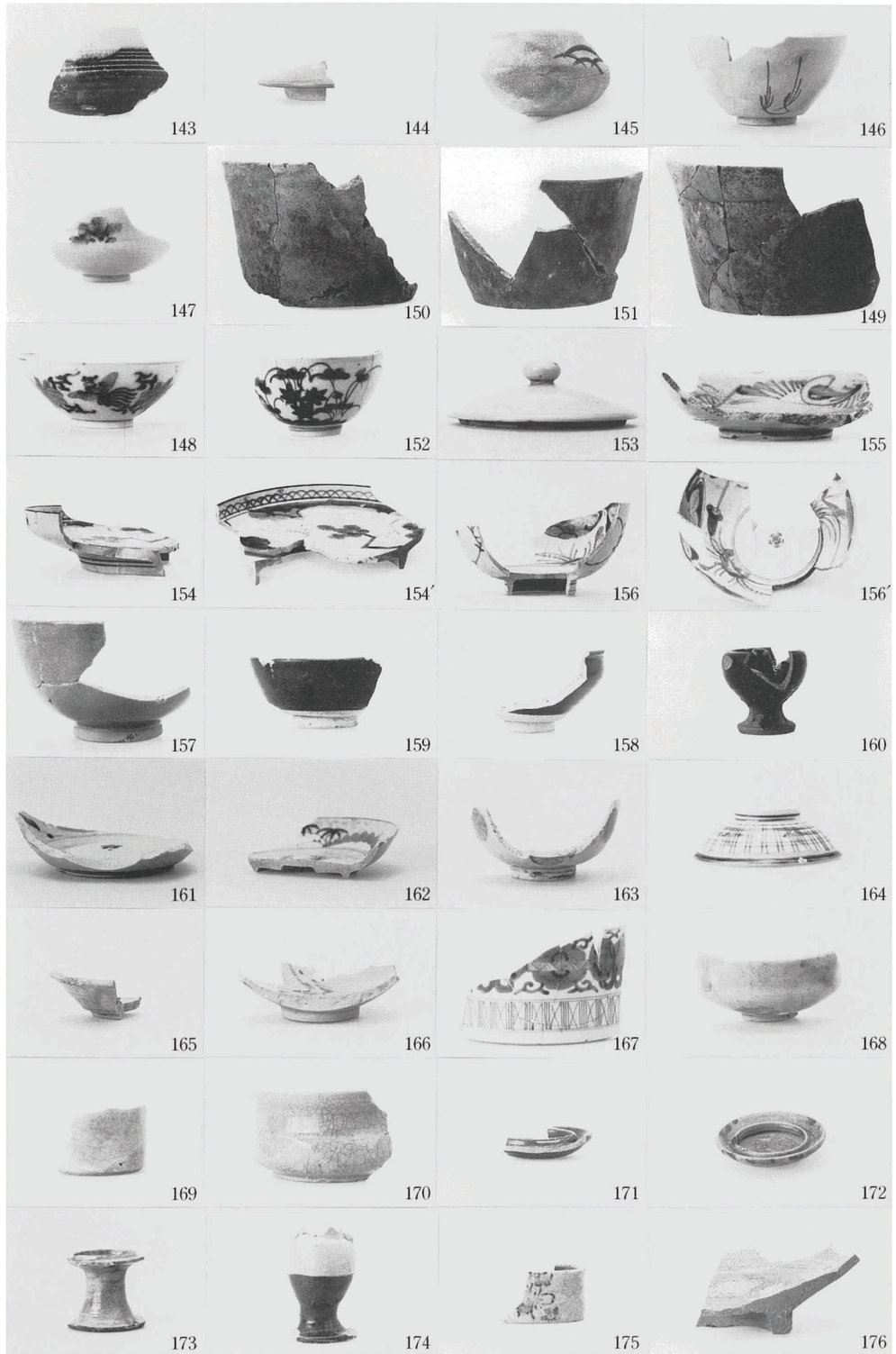


図35　出土遺物実測図6



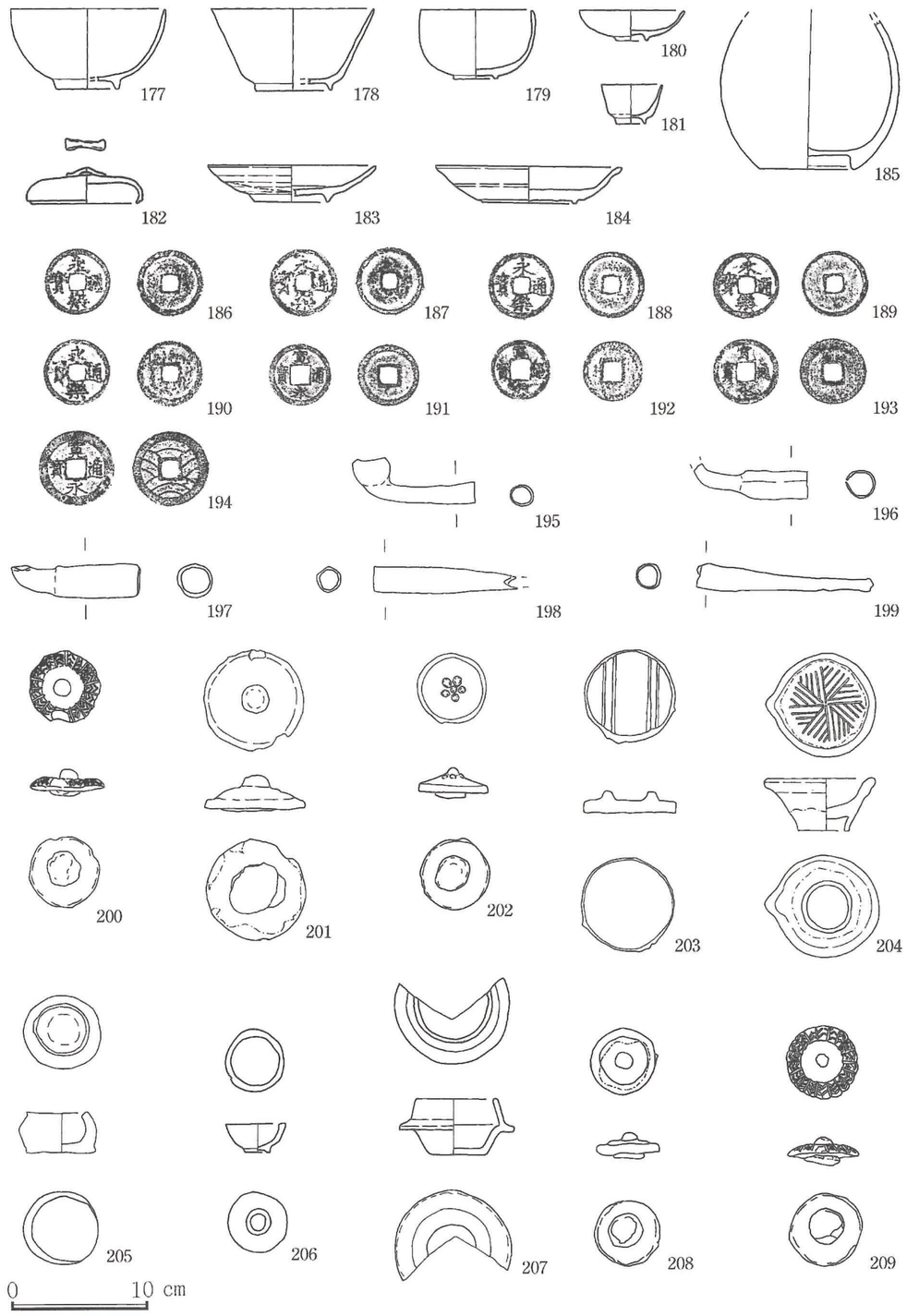
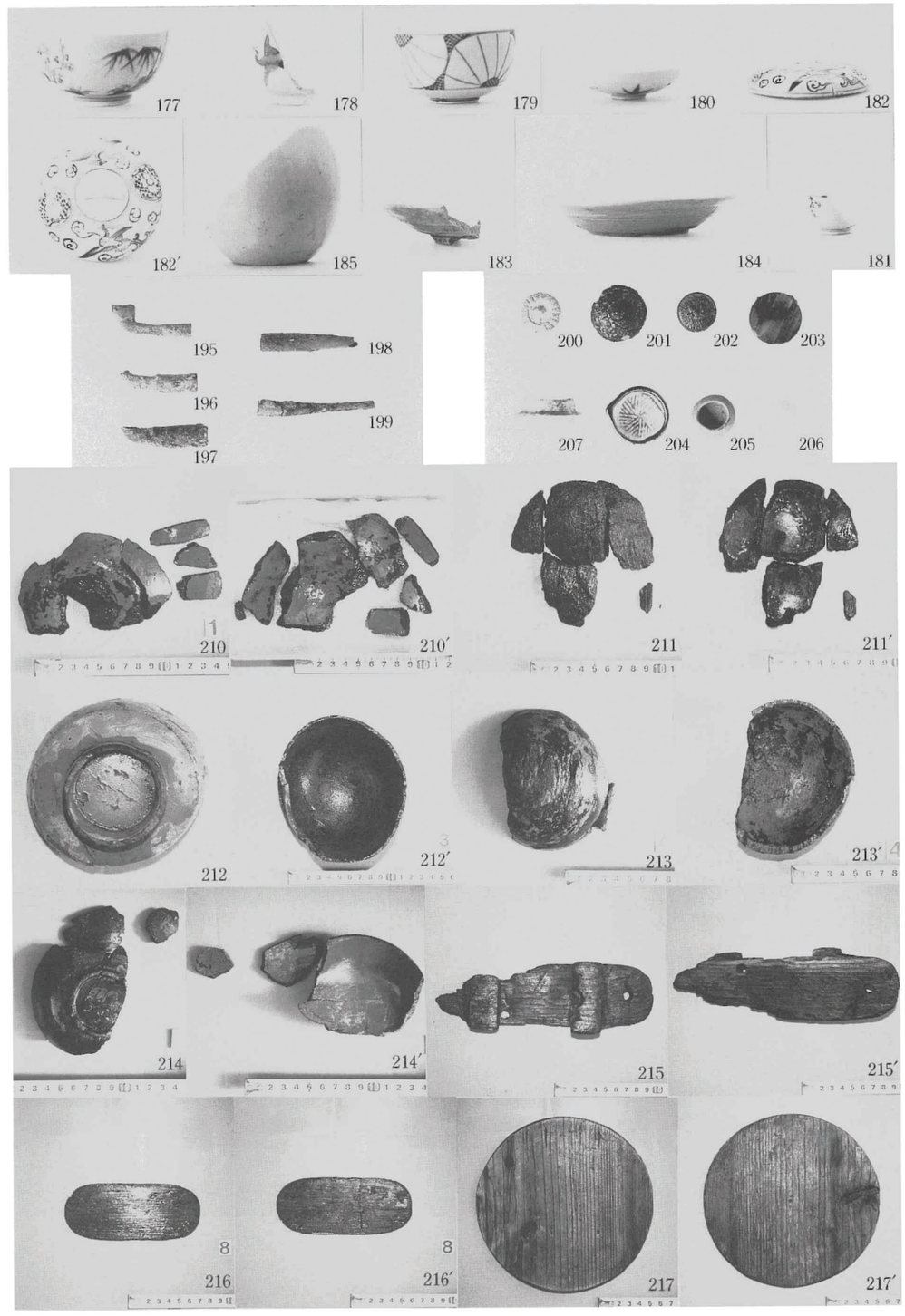


図36　出土遺物実測図7



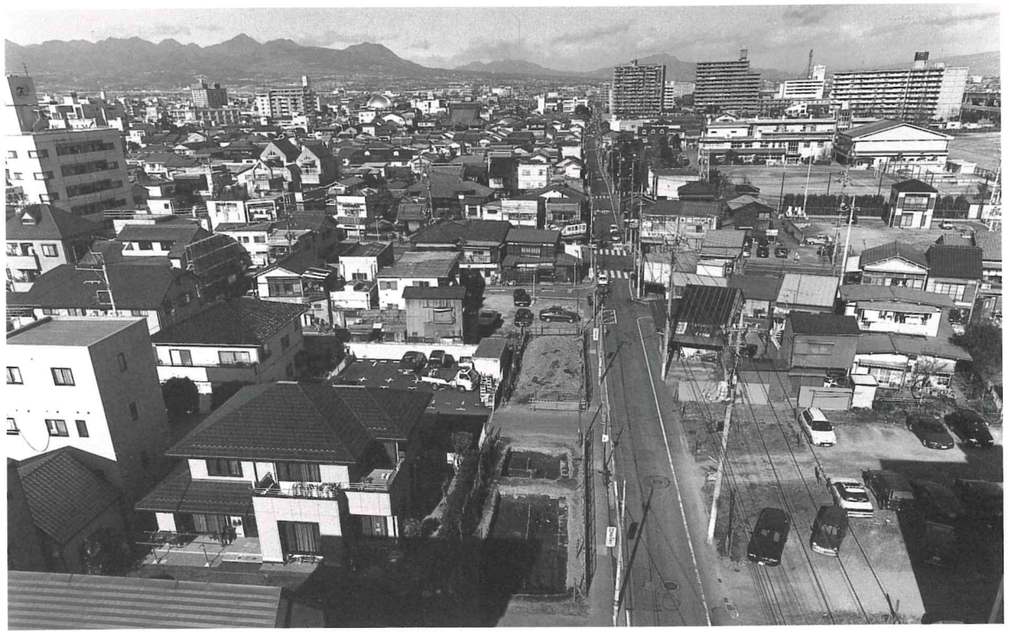


写真１　真町Ⅱ遺跡と東二条通り空中写真

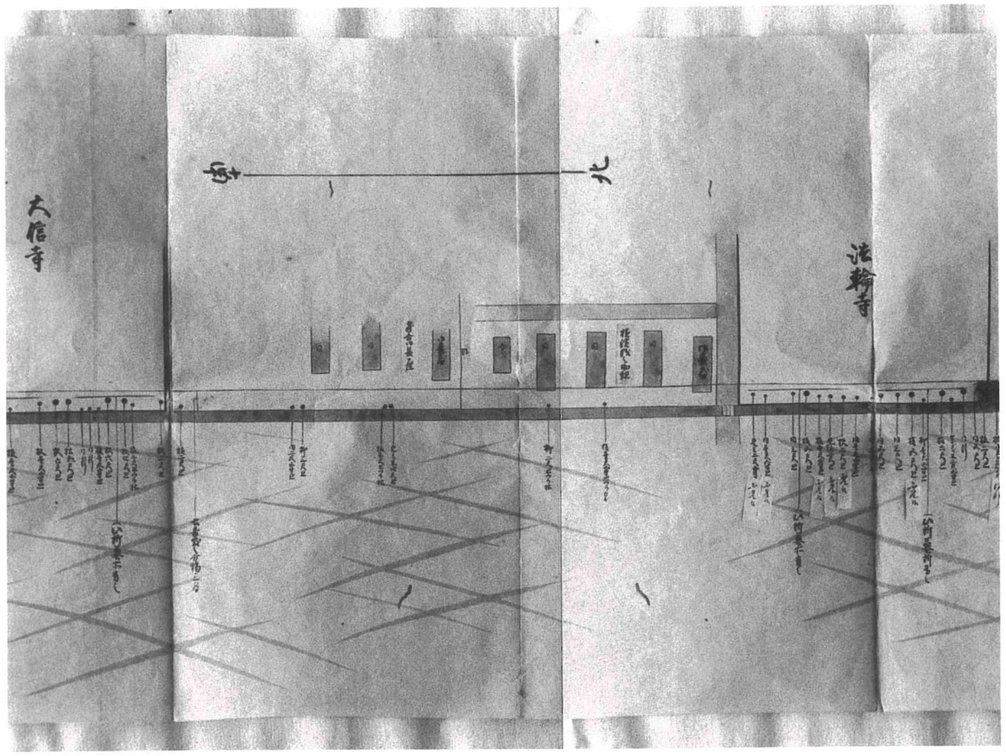


写真２　真町Ⅱ遺跡付近の「遠御構筋繪図」（部分）

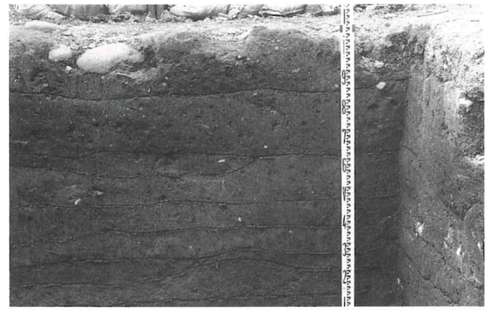


写真３　１区柱状セクション

写真４　２区柱状セクション

写真５　１区第３面凹み近景

写真６　２区第３面検出状況

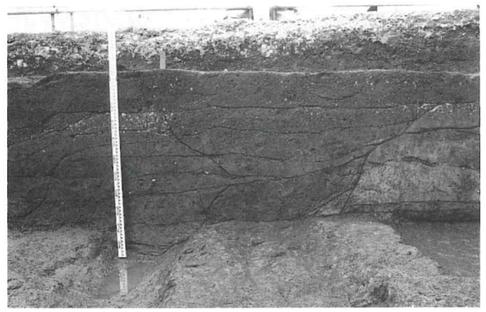


写真７　２区第３面セクション

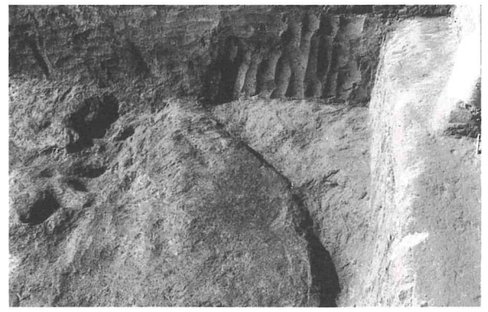


写真８　２区ＳＤ 15 全景

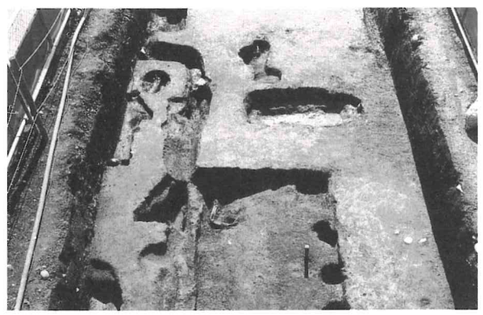


写真９　１区第２面北半景

写真 10　１区ＳＤ 02 セクション

写真11　1区ＳＤ01全景

写真12　1区ＳＤ02全景

写真13　1区ＳＤ02全景

写真14　1区ＳＤ02堰状遺構

写真15　1区ＳＤ02堰状遺構近景

写真16　1区ＳＤ02柄杓出土状況近景

写真17　1区ＳＤ03遺物出土状況

写真18　1区ＳＫ15茎状植物出土状況

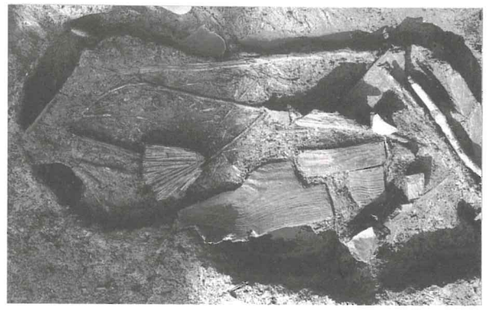


写真19　1区ＳＫ15板・枝出土状況

写真20　1区ＳＫ15石・瓦出土状況

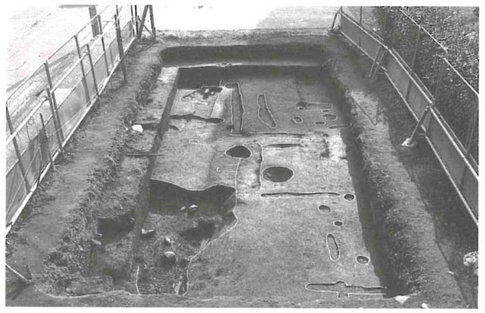


写真21　2区第2面南側区画全景

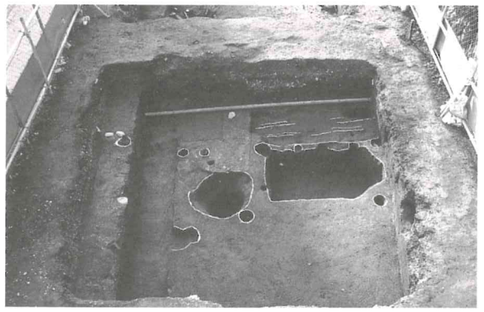


写真22　2区第2面北側区画全景

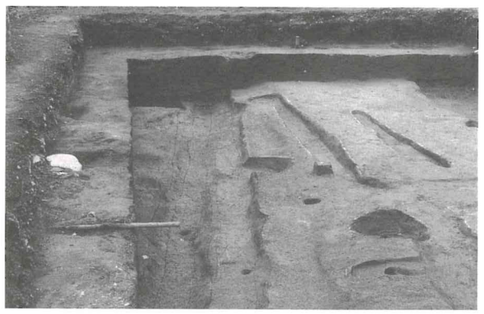


写真23　2区ＳＤ12・13全景

写真24　2区ＳＤ14検出状況

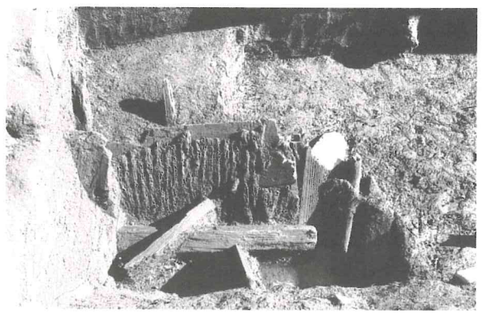


写真25　2区ＳＤ14近景

写真 26　2 区ＳＤ 14 全景

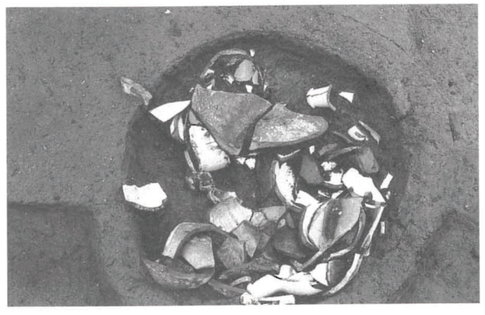


写真 27　2 区ＳＫ 27 遺物出土状況

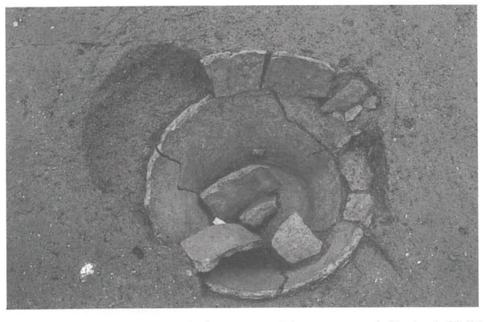


写真 28　2 区ＳＫ 30 遺物出土状況

写真 29　2 区ＳＫ 34 遺物出土状況全景

写真 30　2 区ＳＫ 34 遺物出土状況近景

写真 31　2 区ＳＫ 34 遺物出土状況近景

写真 32　2 区ＳＫ 34 木製品出土状況近景

写真 33　2 区ＳＫ 34 遺物出土状況近景

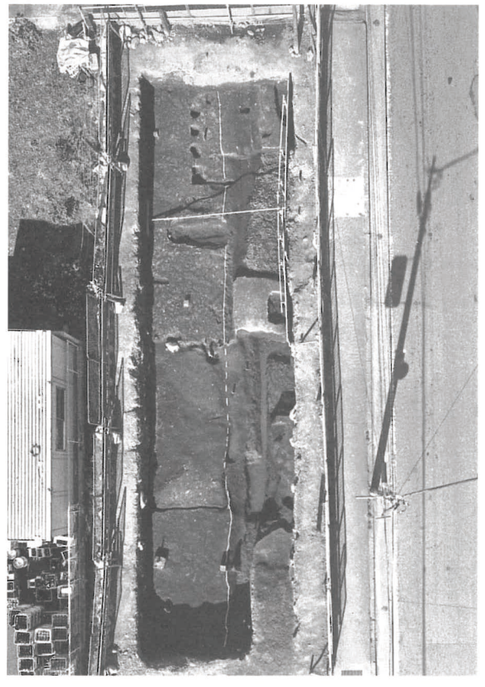


写真 34　1 区ＳＤ 04 空中写真

写真 36　1 区ＳＤ 04 ｂ－ｂ’ セクション

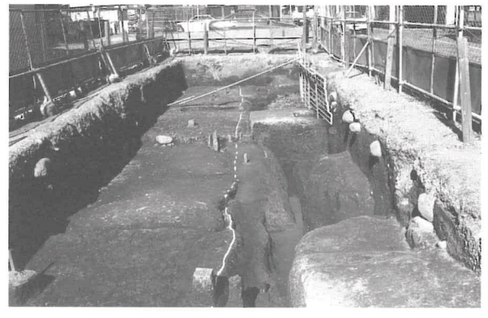


写真 37　1 区ＳＤ 04 全景

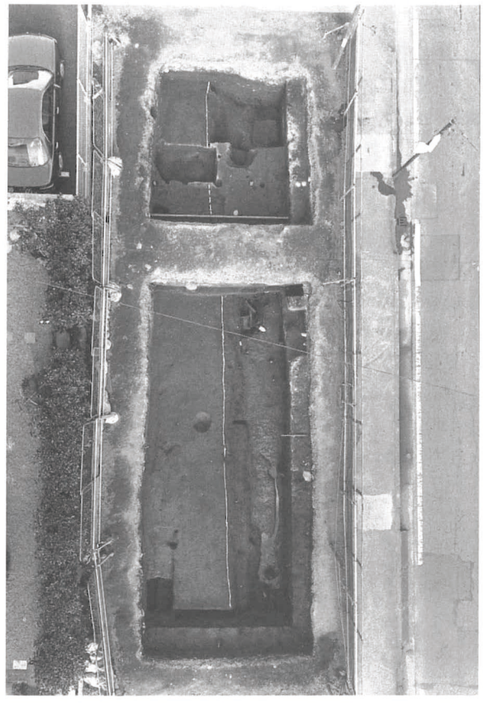


写真 35　2 区ＳＤ 04 空中写真

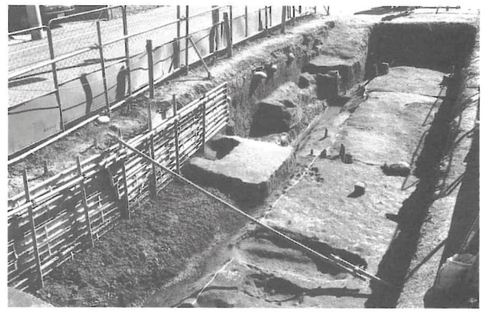


写真 38　1 区ＳＤ 04 全景

写真 39　1 区ＳＤ 04 西側斜面近景

写真 40　1 区ＳＤ 04 西側斜面近景

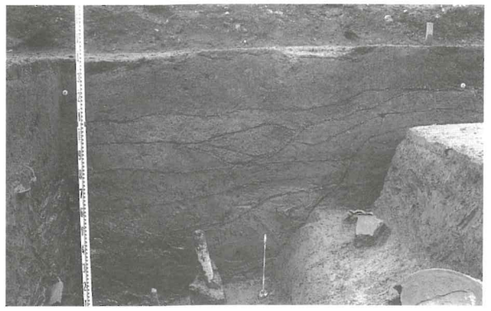


写真 41　2 区ＳＤ 04 南壁セクション

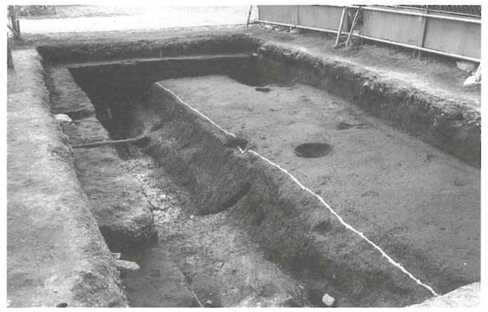


写真 42　2 区ＳＤ 04 全景

写真 43　2 区ＳＤ 04 西側斜面遺物出土状況

写真 44　2 区ＳＤ 04 西側斜面獣骨出土状況

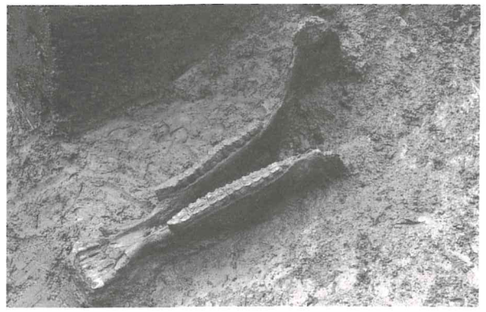


写真 45　2 区ＳＤ 04 馬下顎骨歯出土状況

写真 46　2 区ＳＤ 04 漆椀出土状況

写真 47　1 区第 1 面検出状況全景

写真 48　1 区ＳＫ 10 板・杭出土状況

写真 49　1 区ＳＫ 10 全景

写真 50　1 区ＳＫ 10 板・杭出土状況

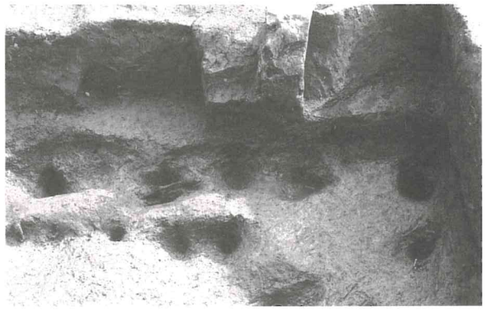


写真 51　1 区ＳＫ 10 ピット列検出状況

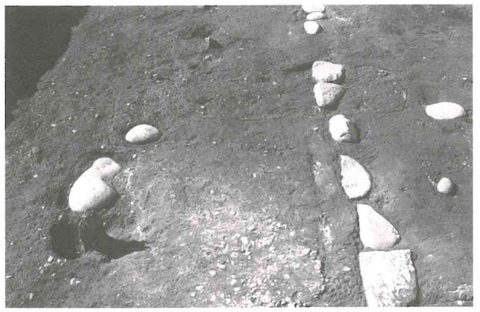


写真 52　2 区第 1 面北側区画検出状況

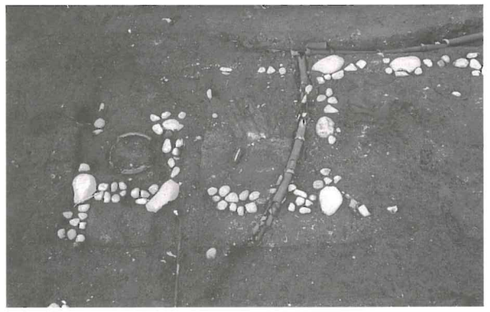


写真 53　2 区第 1 面南側区画検出状況

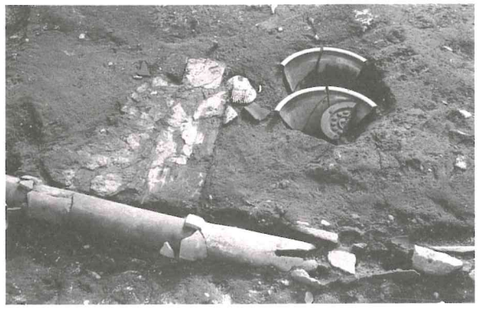


写真 54　2 区ＳＫ 26 遺物出土状況

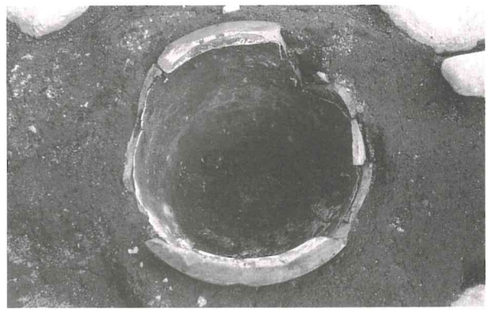


写真 55　2 区下甕出土状況

発掘調査報告書抄録

ふりがな	しんちょう2いせき
書名	真町Ⅱ遺跡
副書名	高崎駅周辺（西口）土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書（2）
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第163集
編著者名	田村 孝 ・ 金井 英一
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370－8501 群馬県 高崎市 高松町35番地－1
発行年月日	1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
真町Ⅱ（しんちょう2）	高崎市真町（たかさきししんちょう）	102020	325	361927	1390046	19980907 19981226	443㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
真町Ⅱ	生産跡	古墳	水田跡		Ｈｒ．－ＦＡ下
	集落跡	近世	堀跡・土坑・溝 ピット	陶器・磁器・土師質 土器・木製品・煙管・ 古銭・桃核・瓦	高崎城遠構堀
		近代	建物跡・道路跡・ トイレ跡・土坑・ 溝・ピット	陶器・磁器・瓦質土器	

高崎市文化財調査報告書第163集

真町Ⅱ遺跡

平成11年3月31日 印刷
平成11年3月31日 発行
編集 高崎市教育委員会
発行 高崎市教育委員会
印刷 杉浦印刷株式会社